

## 資料編 目次

資料番号	資料内容	頁
資料 1	普及セミナー配布資料	資-1
資料 2	平成 29 年度地域協議会向けアンケート調査票	資-104
資料 3	平成 29 年度活動組織向けアンケート調査票	資-118
資料 4	平成 29 年度市町村向けアンケート調査票	資-134

## 2月14日 森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー・プログラム（敬称略）

9:30 開場

10:00～10:05 開会挨拶

10:05～11:45 活動組織の活動事例報告（4団体）

10:05～10:25 森ボラ協議会（北海道）

10:25～10:45 貝沼茸山整備研究会（長野県）

10:45～11:05 いなべ山造り塾（三重県）

11:05～11:25 倉永山林保全の会（福岡県）

11:25～11:45 質疑応答

11:45～12:00 モニタリング関係アンケート結果の概要

公益財団法人 日本生態系協会

12:00～13:00 昼休み

13:00～15:00 パネルディスカッション

コーディネーター：山本 信次（岩手大学 農学部 准教授）

パネラー：丹羽 健司（特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー）

大堀 尚己（北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局）

原田 明（一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 業務第2部  
コミュニティービジネスチーム長）

井野 道幸（熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長）

木下 仁（林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室 室長）

【パネルディスカッション議題】

議題1：モニタリング調査の意義と課題

議題2：モニタリング調査を効果的に進める方策

議題3：モニタリング調査を有効につなげていくために

15:00 閉会

# 『森ボウ協議会』 活動報告



2018年2月14日  
月島社会教育会館

森ボウ協議会

幹事：釣井 市朗

幹事：檀棒 典夫

事務所所在地：北海道札幌市

## 内容

1. 会の概要
  2. 澄川環境林
  3. 有明第二環境林
  4. 各地のまとめ
  5. 問題点など
- おわりに



# 1. 会の概要

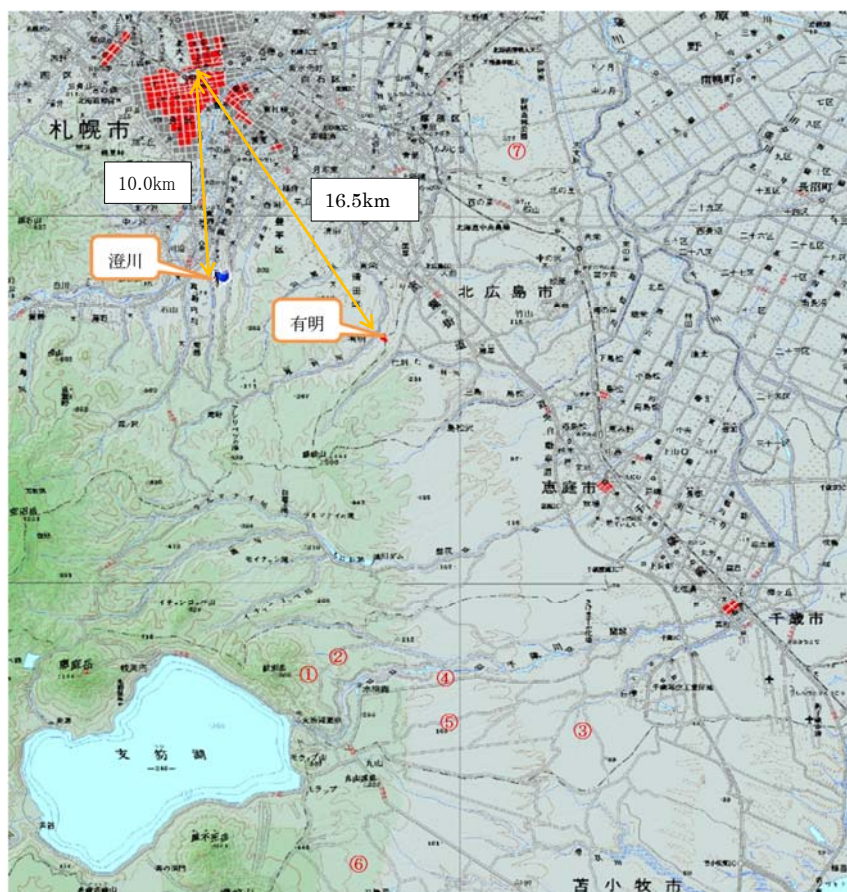
- ・『森ボラ協議会』は「NPO法人 北海道森林ボランティア協会」の森林・山村多面的機能発揮対策交付金の活動グループとして平成25年6月設立。
- ・「NPO法人 北海道森林ボランティア協会」は平成14年設立、平成16年5月NPO法人資格取得。
- ・会の目的：地球環境の向上や自然との共生を願う同志が集い、森林の育成・保全、次世代への継承を目的とした活動を展開。

## 【活動地】

多面活動対象地：「札幌市澄川都市環境林」 面積65.1ha  
「札幌市有明第二都市環境林」 面積14.0ha

その他の主な活動地：国有林千歳市5カ所 面積計54.6ha  
国有林苫小牧市1カ所 面積7.1ha  
国有林江別市1カ所 面積1.9ha

3



4



【活動内容】

林内活動：整理伐(倒木、傾斜木、枯損木の整理、受光間伐)、  
地拵え、植栽、下草刈り、作業道整備(木道を含む)  
整理伐材を活用した製材・マキ・炭・キノコ作り  
避難小屋作り、枝葉処理、動物食害防止網設置  
標準木・標準地調査、観察会  
親子森林教室開催、幼稚園児森林教室支援、学校教育支援

啓発・教育活動：安全教育、研修セミナー、研修旅行

【活動頻度】

林内活動：120日/年  
啓発・教育活動：10日/年  
会議等：15回/年

【規模】

会員数：68名(2017年12月末現在、90%程が退職者)  
活動日参加者：10~20名/回

5



6



## 2. 澄川環境林

目標:「豊かな生き物を育む  
巨木の森」

①～③モニタリング調査地



7









# 澄川モニタリング調査

平成29年度 澄川モニタリング調査目標・結果

タイプ名 調査区	目標	モニタリング方法	初回モニタリング 結果(H29,6)	活動初年 目標数値	初年結果	2年目 目標数値
地域環境保全タイプ(里山林保全) 澄川①	・混みあった林をすっきりして、健全な森にしたい	・相対幹距比	12.3 (H29,6,20調査)	2ポイントup	16.1 (H30,2, 調査)	—
同上 澄川②	・無立木地に樹を植え育てる	・高木になる樹木の生立本数 ・植栽した苗木の平均樹高	0本 0cm (H29,6,20調査)	25本/100㎡ 〇〇cm	平成30年10月 植栽予定	20本/100㎡ +20cm
同上 澄川③	・混みあった林をすっきりして、健全な森にしたい	・相対幹距比	11.8 (H29,6,20調査)	2ポイントup	14.3 (H30,2, 調査)	—

\* 調査区面積はいずれも10m×10m=100㎡

\* 相対幹距比対象樹木は胸高直径は5cm以上

## 澄川モニタリング①





## 澄川モニタリング②



13

## 澄川モニタリング③



14

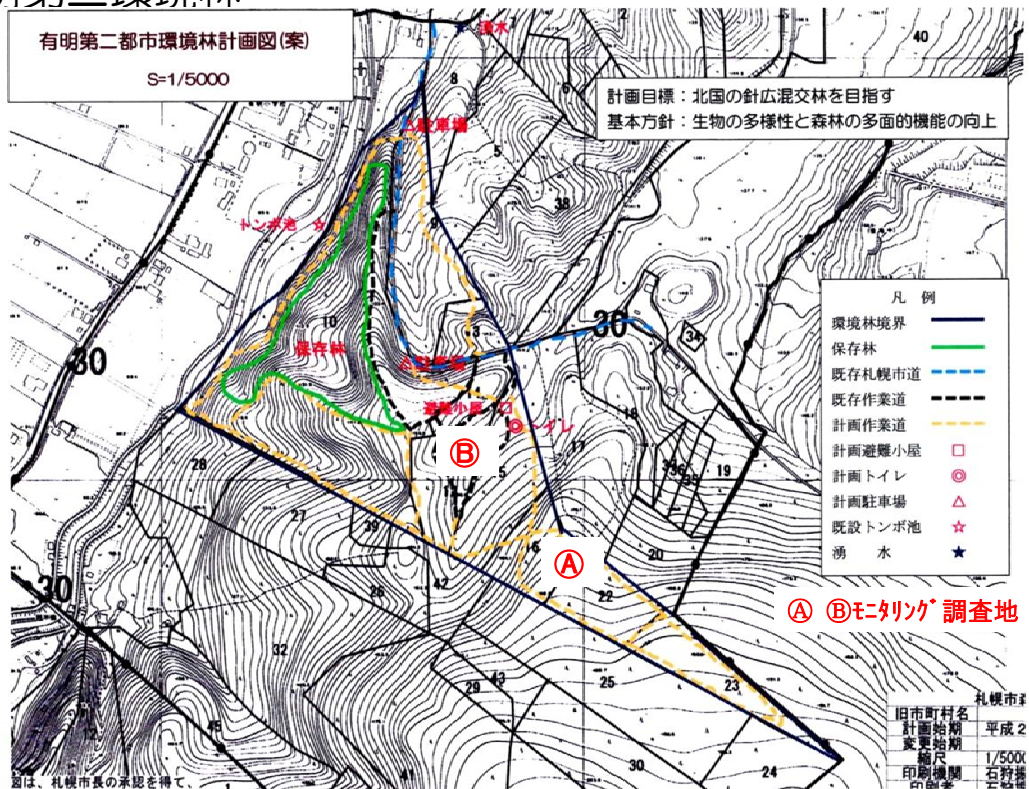


澄川モニタリング地のまとめ(対象樹木は直径5.0cm以上)

番号	樹種	モニタリング①		モニタリング③	
		初回調査 本数(本)	活動初年 本数(本)	初回調査 本数(本)	活動初年 本数(本)
1	アズキナシ			5	3
2	イタヤカエデ	13	9		
3	エゾヤマザクラ			7	6
4	シナノキ	10	5		
5	シラカンバ	2	1	1	0
6	ミズナラ			12	8
7	ニセアカシア	1	0		
計		26	15	25	17
1ha当り本数		2,600	1,500	2,500	1,700
相対幹距比		12.3	16.1	11.8	14.3

\*モニタリング地区の形状:10m×10m

#### 4. 有明第二環境林









平成29年度 有明モニタリング調査目標・結果

タイプ名 調査区	目標	モニタリング方法	初回モニタリング 結果(H29,6)	活動初年 目標数値	初年結果	2年目 目標数値
同上 有明A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林内に散在する倒木、危険木、枯損木などを処理して、里山の景観を良くしたい</li> <li>・ササを刈り払って天然更新を促進したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相対幹距比</li> <li>・ササの侵入率</li> <li>・稚樹の本数(樹高1.0m以上)</li> </ul>	17.7 90% 0本 (H29,6,14調査)	2本/100㎡ 30% 0本	21.7 10% 0本 (H29,7,26調査)	- 10% 2本
同上 有明B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無立木地に樹を植え、育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木になる樹木の生立本数</li> <li>・植栽した苗木の平均樹高</li> </ul>	5本 61cm (H29,6,14調査)	20本/100㎡ 〇〇cm	20本 52cm (H29,10,24調査)	16本/100㎡ +20cm

\* 調査区面積はいずれも10m×10m=100㎡

\* 相対幹距比対象樹木は胸高直径は5cm以上

有明モニタリング A

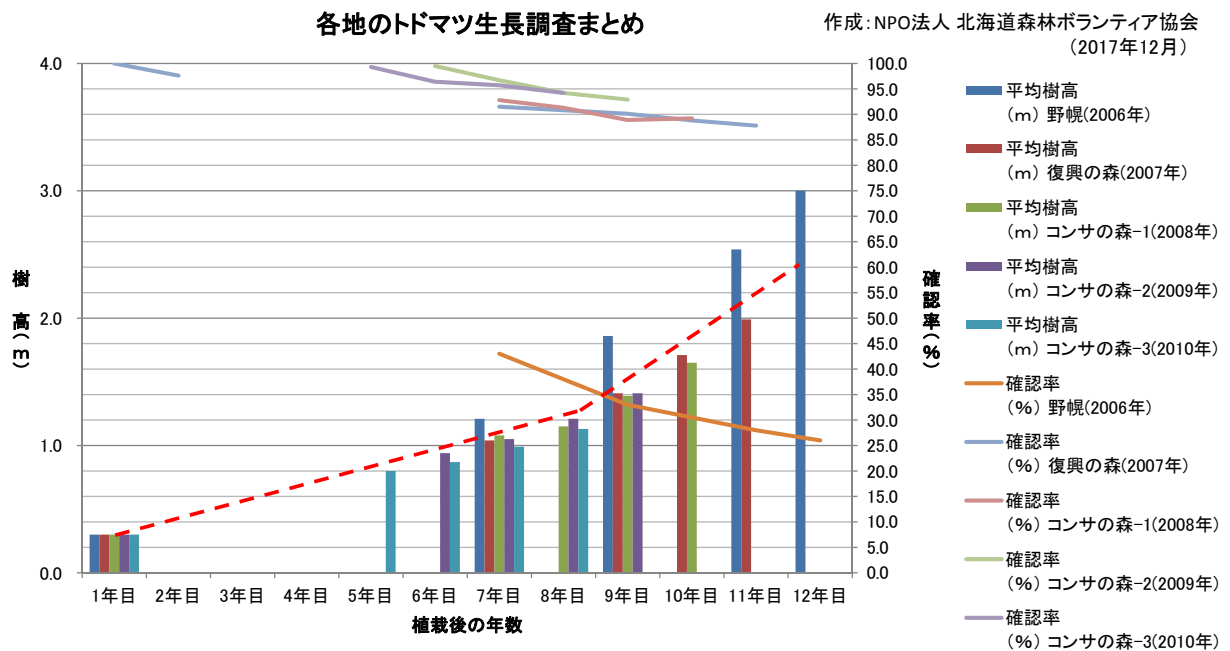




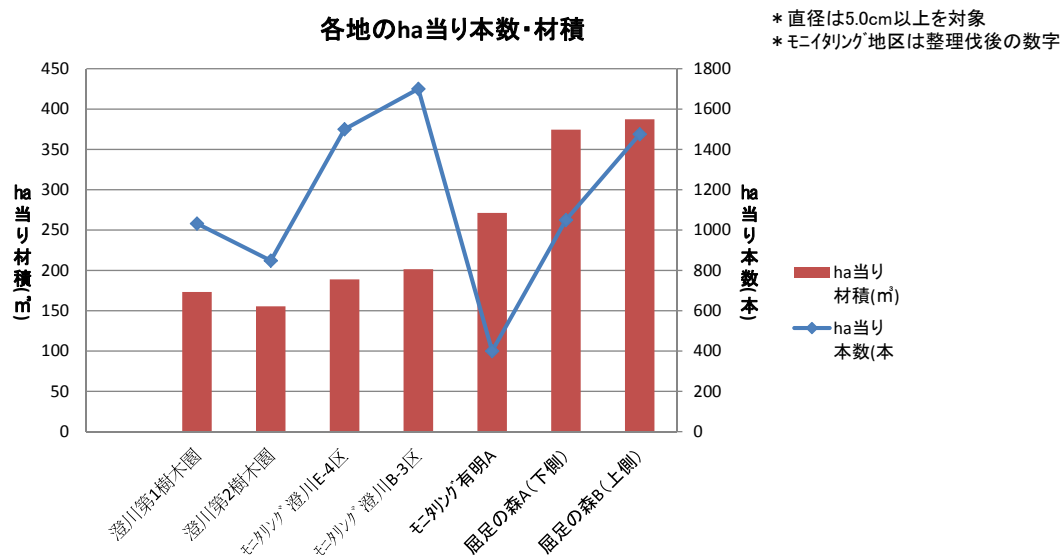
## 有明モニタリング B



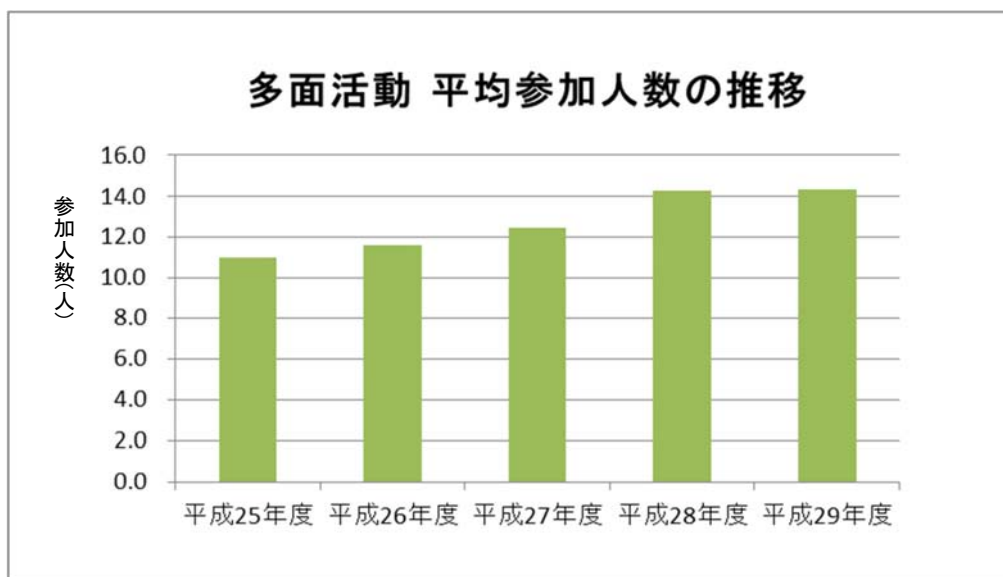
## 4. 各地のまとめ



### 各地のha当り本数・材積



### 多面活動 平均参加人数の推移



## 5. 問題点など

### 【モニタリング調査】

- ①広葉樹2次林におけるモニタリング方法
  - ・ 相対幹距比算出の対象樹木の選択では胸高直径5.0cm以上。
  - ・ 調査区画10m×10mでは適切な林相場所の選定が難しい。
- ②広葉樹2次林のモニタリング調査間隔
  - ・ 整理伐間隔は15年程度と考えているので、3～5年目の調査では変化が少ないと思われる。

### 【活動の継続】

- ①会員の高齢化
  - ・ 退職年齢の高齢化に伴い、新入会員も高齢化している。
  - ・ 現役世代も参加しやすい環境を整える視点から、土日作業増加。
- ②活動場所の固定
  - ・ 札幌周辺では個人所有の民有林が少なく、NPOが活動可能な森林を探すのが難しい。
- ③経済的な自立
  - ・ 自己収入の道を模索していますが、森林保全活動は、助成金や補助金なしでは継続が難しいと考えています。

25

おわりに

このような森林活動が永遠に引き継  
がれていくことを願っています！



26



ご清聴ありがとうございました





# うちの裏山を 「ワクワク」に変える

貝沼茸山整備研究会

1

## うちの裏山をワクワクに変える



2

# 「造るマツタケ」への挑戦



3

# 仲間との楽しい語らい



4



# キノコ争奪戦 ジャンケン大会



5

# ジャンケンに勝った我が家の分け前



6

# キノコ山づくりは女性が主役



7

# お父さん、さあやるわヨ



8



## 夫婦円満 会話が弾む！



9

## 老若男女 どなたでも大活躍！



10

# 綺麗になった山を見て感動！ うちの山はピカピカだよ！

作業前



完了



11

## 褒められる喜び。他者貢献



12



## 自分の山に魅力なし 山なんていない

- 裏山はアカマツ山
- 西の木曾ヒノキ、東に伊那マツあり
- 梁材、床板、経木の需要激減
- 松枯れ被害の追い打ち



山は荒れ放題

「山なんかいない、、、」

13

## 山主の自信と誇りを取り戻したい

- 地域の特徴は  
アカマツ
- 誰もが出来る  
住民参加型
- 地場産業の創出
- お小遣い



当交付金の趣旨  
に感動！  
よし！やるべ！

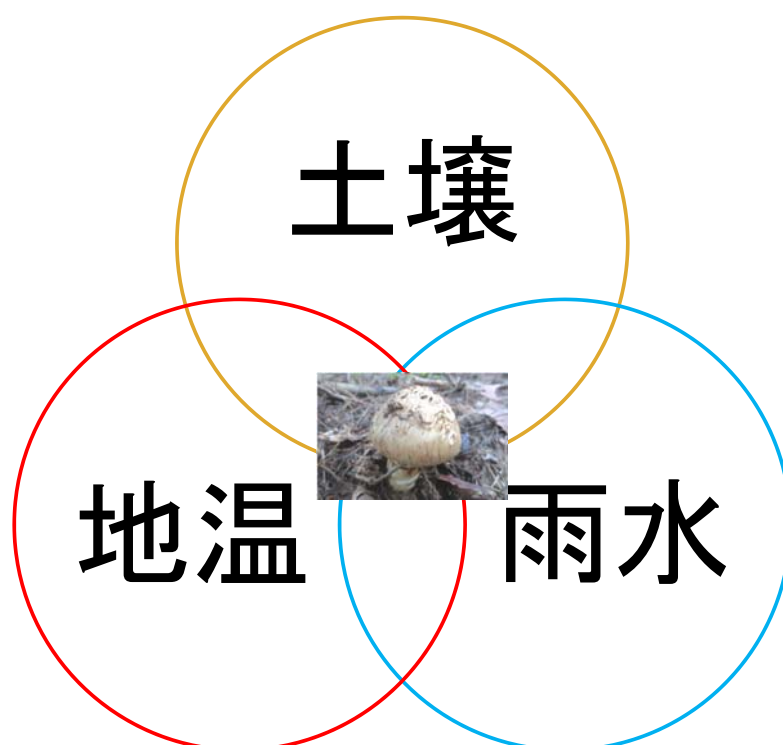
14

伊那マツタケをご賞味ください！



15

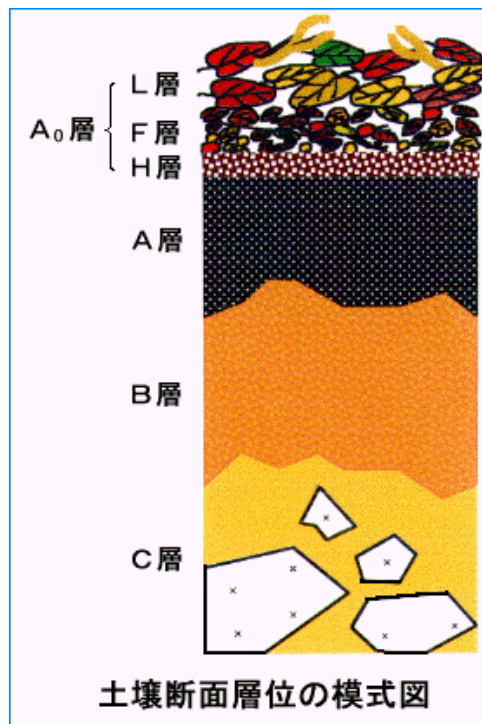
マツタケ発生の3条件



16



# マツタケ菌の生育地



- 腐食層は雑菌が多い
- 雨水をシャットアウト
- 直射日光をシャットアウト
- マツタケ菌の生育地
- カヨワイ菌なので雑菌に負ける

荒れ放題の山はA層メタボ状態！

出展：森林総合研究所 九州支所

17

## ① 土壌を整える 雑菌の繁殖地、A層を取り除く



18

## ②雨水を求めて A層を取り除く



19

## ③地温を上げる A層を取り除く



20



### ③地温を上げる 除伐



21

### ③地温を上げる 不要木を枯らす



22

# モニタリング A層の改善

作業前 10cm



作業後 4cm



23

## 整備成果 コウタケ

漢字表記は「香茸」

字のごとく香豊潤

幻のキノコ！

築地ではマツタケより高価



24



## 整備成果 ホンシメジ

「香りマツタケ、味シメジ」

炊き込みご飯

すき焼き

煮込みうどん



25

## 整備成果 タマゴタケ

煮込みうどん

天ぷら



26

# 山に行くのが楽しい！ 山主の自信と誇りが戻った！



27

## マツタケは「取る」から「造る」時代へ



28



# うちの裏山を「ワクワク」に変える

整備のコツは「コツコツ」と！

いっぺんに整備してしまうと20年キノコが出来ません。

急激な環境変化はキノコ菌にとってストレスになります。

毎年、少しずつ整備していくことが大切です。

野生キノコ生産が軌道の乗るには、どんなに早くても5年必要と言われています。

当交付金の継続を切望しております。よろしくお願いいたします。



# いなべ山造り塾

(三重県いなべ市)

## 活動事例発表

～ 次の世代につなぐ豊かで元気な山づくり ～

平成30年2月14日

いなべ山造り塾

代表 鬼頭志朗

## 発表内容

- はじめに
- どんな森づくりを目指しているのか
- 活動地の状況
- 活動内容
- モニタリング調査の取り組み状況
- 活動成果
- 課題と要望
  - モニタリング自主トレの全国展開
  - 活動負担の軽減 ⇨ 日々の活動写真撮影の簡素化
- 今度の展望



# いなべ市

三重県最北端に位置し、岐阜県、滋賀県に接する。市の中央を員弁川が流れる。  
人口 45,815人(H27年国税調査) 森林面積 約22,000 ha(民有林率92% 大半が5ha未満小規模山主)



## どんな森づくりを目指しているのか

- 山造り研究所が実践的山仕事を行う傍らコーディネート役になり、山主有志グループや森林ボランティア、地域住民らと森の手入れを**山主さんと共にたのしみながらおこなう**
- 山主さんと一緒に人工林の調査『森の健康診断』を実施して調べた結果から**森づくりのデザイン**を考えて描いてもらう
- 素人の山主さんでも自身で自分の山の手入れが出来るよう 山づくりの考え方、**安全技術(防具装着・手入れ・使い方)** 自然観察・樹木分類などを身につける支援

# 活動地の状況と内容



活動実績状況 活動タイプ	H29 活動地面積	参加人数 目標	延べ参加人数	
			H28	H29(活動中)
里山林保全	1.0 ha	15	46	19
侵入竹除去	1.0 ha	36	55	35
森林資源利用	5.0 ha	75	129	98
森林機能強化	150 m	15	14	15
教育・研修	12回	120	147	96
合計		261	391	263

- H28年度
  - 大雪の影響
- H29年度
  - 台風、長雨、大雪と活動中止回数が増えている

2018/02/14

いなべ山造り塾

5

## 小規模山主さんに寄り添う活動



2018/02/14

いなべ山造り塾

6



# 木材搬出機械の貸し出し・手伝い

手作業から軽機械作業に楽しんで山仕事



2018/02/14

いなべ山造り塾

7



山造りの基本が身につく講習会



2018/02/14



いなべ山造り塾





# チェーンソー 目立て講習会



2018/02/14

いな



# チェーンソー伐倒基礎技術講習会



2018/02/14

いなへ山造り塾

16





## 侵入竹と 付き合う 勉強会



2018/02/14

いなべ山造り塾

11

# 侵入竹除去 根系除去実験観察



半年後



2018/02/14

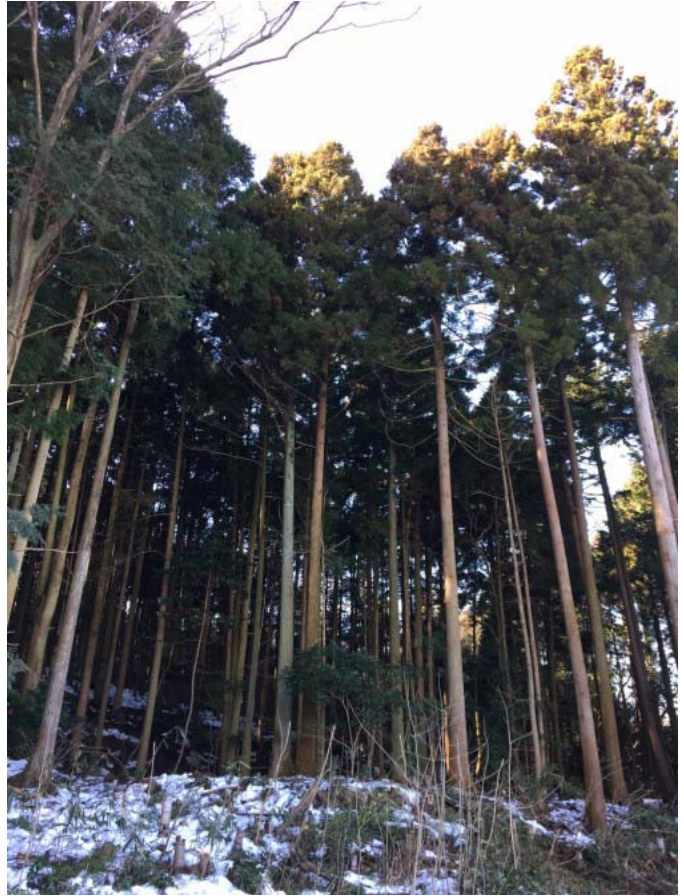
いなべ山造り塾

12





2018/02/14



いなべ山造り塾



2018/02/14

里山林整備



いなべ山造り塾



# テレビ新聞など各種報道機関でも 取り上げていただきました



2018/02/14

いなべ山造り塾

15

山の手入れが気軽にはじめられる たのしくて 少しためになる 素人山主の山づくり

## いなべ山造り塾 通信 第7号

平成28年11月20日 発行：山造り研究所

うちの山はどこからどこまで？ 山の境界を知ろうと思っている地元山主さん森林に関わるみなさんとGPS・GISを使い境界測定の講習会を開催しました。

11月12日(土) 藤原町山口地区で、講師に高橋 啓(あきら)さん(NPO法人緑の国森林探検事務所(愛知県新城市)を招いておこなわれた講習会には、地元の山主さんや財産区林務職員や市民など、いなべ市の人工林を良くしたいと想っているみなさんが多数集まりました。

講習メニューは

- ◆ 座学講習「GPS使用方法」と「境界のしらべ方」について
- ◆ 現場へ移動「GPS操作と現地山林境界の確認」
- ◆ データのまとめ(境界確定)

まずはじめに、山と山主、山と地域を結びつける森林コミュニティについて、そして、森林GPS・GISを使った「森の探索」、「森と山主」「森と地域」の関係をつくる方法、GPS・GIS技術を活用した「地域資源の見える化」などの座学とGPSの使い方を習いました。午後からは現場の山へ入り、GPS機器や森林計画図を使って、境界の確認とデータ集めをしました。また、森林の状態を知る為に以前にもおこなった森の健康診断の混み具合調査も一緒におこなわれました。山主さんに実際の現場の様子を知ってもらう為に必要と講師の高橋さんは参加したみなさんに説明をされました。



アンケート結果 (回答8名)

質問内容	座学について	実地の感想
とてもわかりやすい	2	0
わかりやすい	3	6
ふつう	3	2
わかりにくかった	0	0

参加した皆さんからは

- ・境界確認がGPSのデータで地図にできることは素晴らしい
- ・知ったからには活かしたい
- ・自分の地域でも取り組めるといいなと思った
- ・GPSやパソコンなど、デジタル機器やソフトがとても便利なものであることをあらためて認識しました

\*\*\* 次回の講習会予定 \*\*\*  
12月3日(土) 9時~15時 チェンソー安全技術スキルアップ

<申込み・問い合わせ>  
いなべ山造り塾 事務局  
☎ 090-1785-6182  
shiro.kito@icloud.com

2018/02/14

いなべ山造り塾

山の手入れが気軽にはじめられる たのしくて 少しためになる 素人山主の山づくり

## いなべ山造り塾 通信 第4号

平成28年9月20日 発行：山造り研究所

目からウロコの技に参加したみなさん ガッテン!



『森のデザインとチェンソー安全技術講習(初級編)』開催

9月18日(日) いなべ市藤原町山口地区で、講師に兵庫県丹波市で林業士として林業の現場で活躍している 中島 彩さんを招いておこなわれました。(『現代林業』で大人気連載中)

前日におこなわれた『森の健康診断』で、人工林の調査と山の手入れ目標など森のデザインを見て戴いた皆さんも参加され、安全に関わる木を伐るために必要なことは何かを学んでいただきました。山づくりや山仕事には、いまや欠かせない道具としてチェンソーを利用する機会が多くなりました。

しかし、その取り扱いや手入れなど基本となる部分を正しく教えてもらえずに使っているのが実情です。そこで道具の使い方や防具装備、安全な伐倒の基本などを知って、習得していただける内容でおこなわれました。

午前中は、身を守る装備の必要性和安全な道具の使い方について

- ・チェンソーや刈り払い機を使う時のお約束、安全防具(ヘルメット、保護パンツ)を必ず身に付ける。
- ・チェンソーの持ち方や構え方を見る。
- ・伐倒デモンストレーション
- ・木を安全確実に狙った方向へ倒す切り口(受け口と追い口)の作り方とロープ牽引の方法
- ・木を1ミリ刻みで切るためのアクセルワークの練習
- ・倒した木の玉切りのしかた(上から切る、下から切る、上下切り)

参加した皆さんの持ち寄ったチェンソーで実習してもらいました。お昼になったところで雨が降りに降ったため、場所を地区集落センターへ移しました。



道具の手入れで仕事が変わりますよ。

<申込み・問い合わせ>  
いなべ山造り塾 事務局 免脱  
☎ 090-1785-6182  
mail shiro.kito@icloud.com

午後からは、基本伐倒の座学とチェンソーの手入れ、目立てをしっかりと覚えていただきました。参加した地元の山主さん、林業関係者、森林ボランティア、一般市民、企業社会貢献担当のみなさんから「わかりやすく、たいへん良かった」と目からウロコで、ガッテン! していただきました。これから山仕事で、格段に楽で・安全に・たのしくなること請け合います。

\*\*\* 次回の予定 \*\*\*  
10月29日(土) 9時~15時 山の權おろし(実地講習)  
10月30日(日) 9時~12時 木づかいと製材所見学

2018/02/14

いなべ山造り塾

16

# モニタリング調査の取り組み状況

タイプ名	目 標	モニタリング方法
地域環境保全タイプ (里山林保全)	頻繁に更新を行う形の里山林(萌芽林)を再生・維持したい	萌芽再生率 【調査区面積】 25m2の方形調査区 【調査項目】 本数、樹種、位置
地域環境保全タイプ (侵入竹除去)	侵入してきた竹を除去する	竹の本数調査 【調査区面積】 25m2の方形調査区 【調査項目】 竹の本数
森林資源利用タイプ	木質資源を持続的に生産し、利用することを目指す	幹材積量調査 【調査区面積】 100m2の円形調査区 【調査項目】 本数 胸高直径 樹高

2018/02/14

いなべ山造り塾

17

## モニタリング調査 目標設定

タイプ名	目 標	現 状
地域環境保全タイプ (里山林保全)	頻繁に更新を行う形の里山林(萌芽林)を再生・維持したい	樹種 8種類 18本 全木萌芽種  大径木2本を残し伐採 →経過観察中
地域環境保全タイプ (侵入竹除去)	侵入してきた竹を除去する	前年度ほぼ全部を除去  竹の本数切株で20本 新芽から細かい竹出現 →経過観察中
森林資源利用タイプ	木質資源を持続的に生産し、利用することを目指す	前年に森の健康診断実施 【別紙】森のデザインシート 100m2内 現状13本 間伐本数 8本 (3年目標) Sr=20 保残木 5本(目標) 総材積 9.33m3

2018/02/14

いなべ山造り塾

18



# モニタリングプロット(25m<sup>2</sup>) 里山林



2018/02/14

いなべ山造り塾



19

# モニタリングプロット(25m<sup>2</sup>) 侵入竹



2018/02/14

いなべ山造り塾

20



# モニタリングプロット(100m<sup>2</sup>) 森林資源



2018/02/14

いなべ山造り塾

21

## 森のデザインシート

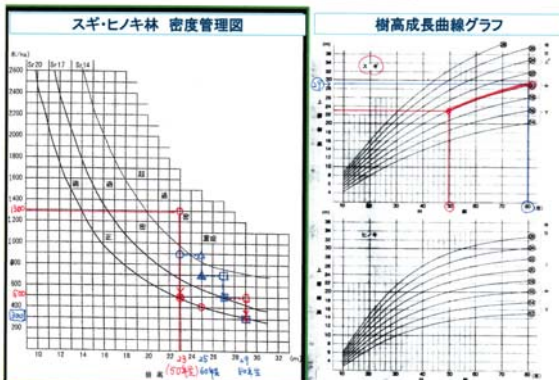
森の健康診断 ふり返り 森のデザインシート

日時 2018年2月1日 地誌名 東禅寺 リーダー 鬼頭志朗

ポイント番号	樹種	方位	胸径	樹冠調査				樹冠高	調査者		
				幅幅 (1.3m×幅)	幅幅 (1.3m×幅)	幅幅 (1.3m×幅)	幅幅 (1.3m×幅)				
474-1	スギ	南	11	12	11	1	0	0	0	20~40%	ある(→2m)

ポイント番号	樹種	樹高	葉み具合				葉の跡まで	
			幅幅 (m)	幅幅 (m)	幅幅 (m)	幅幅 (m)	幅幅 (m)	幅幅 (m)
474-1	スギ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

山づくり	
森のデザイン この森をどのように利用する?	開伐した木はどうする? その他アイデア提案など
実施期	実施期



2018/02/14

いなべ山造り塾

22

### 森林診断書(林分調査表)

調査場所: いなべ山(いなべ山) 樹種: スギ 調査日: 2018年2月1日

直径 (a)	本数 (b)	樹高 (c)	単木材積 (d)	立木材積 (a)×(b)×(d)	備考
8					
10					調査面積 (h) 0.01 ha
12					林齢 50 年
14					ha当本数 (b)×(h) 1300 本
16					平均直径 (d)×(b)×(h) 2.2 (2.2×1300)
18					樹高 平均 (c)×(b)×(h) 21.23 m
20	2	18	0.28	0.56	上層 (d) 23.20 m
22	1	20	0.37	0.37	ha当材積 (m <sup>3</sup> )/ha 7.33 m <sup>3</sup>
24	1	21	0.43	0.43	地位指数 (平均直径) = 0
26	1	22	0.53	0.53	密度 (Sr) (n)×(100×√n)/√(b)×(h)×100
28	2	22	0.64	1.28	(100×√13)×(23.20)×12
30					林分形状比 (a)×(b)×(h)×100
32	1	22	0.81	0.81	2.3
34	2	23	0.95	1.9	
36	2	23	1.05	2.1	
38					
40	1	24	1.22	1.22	
42					備考
44					単木材積は「森林家必携」データによる
46					上層樹高は直径階上位から 1/3 の平均樹高
合計	13			9.33	10年を 50年を 25年26年

施業診断

現状
問題点
施業指針



# 活動成果

## ● 山主さんの変化

- メキメキと技術の腕を上げてきている ☞ たのしくなってきたと言われる
- 安全意識の芽生え ☞ ヘルメット・チャプス・ブーツの装着
- 自分の山へ足を運んでくれはじめた
- 山主さんから活動実施の声がかかるようになった

## ● 誰でも出来る低いハードル設定が人を呼ぶ

- 山主さんから新しい山主さんを紹介されるようになった

## ● 現場の山へ何度も足を運ぶことで新たな発見！

2018/02/14

いなべ山造り塾

23

## モニタリング調査自主トレ会について

- ◆ H29年度にモニタリング調査導入の話が出た時はびっくり、何をしたら良いのか、どのようにまとめたら良いのかなどなど調査内容や手法などに多くの不安や疑問が出ました。
- ◆ 昨年6月岐阜県でモニタリング自主トレ会が企画・開催に参加林野庁本庁からも室長以下担当の皆さんも出席されて活動現場で体験し、ざっくばらんに課題と対策を話し合い、他地区の仲間たちとも交流の幅が広がりました。
- ◆ また、本庁の皆さんが遠路いなべ市まで足を延ばしていただき、三重県地域協議会の方々も入って、直接意見交換や交流が深まったことは、とても良い体験で、大きな成果・収穫だったと感じています。

**来年度以降も続けておこなってください！ m(\_ \_)m**

2018/02/14

いなべ山造り塾

24

# 課題

## 主な問題点



## 解決策

### ■ 雨や雪で作業中止

- ◆ 普段の活動や講習会

### ■ 安全防具購入経費負担

- ◆ フェイスガードイヤマフ付きヘルメット
- ◆ チェンソーパンツ or チャプス
- ◆ 安全ブーツ
- ◆ 防振手袋(グローブ)

### ■ 活動写真の撮影負担

- ◆ 活動の前・中・後 3枚撮影

### □ 雨の日メニューを新設

- ✓ 道具メンテナンス
- ✓ ロープワーク講習
- ✓ 山と森と木の話し会
- ✓ 木材利用グッズ作り など

### □ 安全装備品の購入枠化

- ✓ 初心者でも始められる基本セット  
購入予算があると参加し易い

### □ 日常活動は同じ作業の繰り返しが多い

- ✓ 1枚撮影に省略希望

2018/02/14

いなべ山造り塾

25

# 要望

## □ モニタリング自主トレ会の全国展開化

- 各活動地でモニタリング自主トレ会開催しモヤモヤ解消
- 主に『森の健康診断』をベースにして目標設定を明確化
- 他地域の活動仲間と現場で繋がり、情報・交流を深める

## □ 活動制約の負担軽減と実作業への注力化

- 日々の活動写真撮影の省力簡素化

2018/02/14

いなべ山造り塾

26



# 今後の展望

- 安全技術のさらなる普及
- 活動場所を増やす（面積・箇所ともに）
- 山主さんと森づくりネットワークをつくる
- 高齢化と次の世代を結ぶ活動展開
  - 年を取って、山へ行きたいが行けない（山の心配）
  - 若い山主さん、嫁ぎ先が山主だった育児お母さん（山のことが全くわからない）
- 山主さんの悩み解消パッケージの開発
  - ①境界確認 ②森のデザイン ③資産把握 ④木の出口 ⑤地元産化

2018/02/14

いなべ山造り塾

27



2018/02/14

いなべ山造り塾

28

## 目的

三重県いなべ市 藤原町、北勢町、大安町、員弁町にある山林を環境に配慮したモデル林を目標に林業NPO山造り研究所が実践的山仕事を行う傍らコーディネート役になり、山主有志グループや森林ボランティア、地域住民らと山主さんと共にたのしみながら山の手入れをおこなう学びの場を提供する目的で「いなべ山造り塾」を設立。当地区人工林の森の健康診断、山の棚おろし、間伐、搬出、運搬、境界確認など山主さんの自伐林業支援と山主さん相互のネットワークづくりをはかる取り組みです。

## 講習会・研修会

山主さんが自分の山を自身で整備できるように、山の見方、安全技術、搬出技術の習得などを目的とした講習会を開催しています。

取り組みを行うための基礎となる山づくりの基本や使用する道具の手入れ、安全技術教育などの講習会、自然観察会や樹木分類、環境教育につながる勉強会などを幅広く実施しています。

### 講師陣

元信州大学元教授 島崎洋路（長野県）はじめ、中島 彩（兵庫県ウツズ）、鈴木 章（岐阜県NPO 杉の杜学舎）、高橋 啓（愛知県NPO 穂の国森林探偵事務所）など多彩な講師陣を迎えて、楽しい山づくりの基礎を学んでいます。

## 活動

### 森の健康診断

- ・人工林の科学調査と森づくりのデザインを考える

### 活動地での森林整備

- ・森を豊かに育てる間伐、自然林再生の環境整備、侵入竹の除去

**問い合わせ先** 【TEL】 090-1785-6182 【Mai】 shiro.kito@icloud.com



# 倉永山林保全の会



福岡県大牟田市について

人口：116,552人

土地面積：8,145 ha

林野面積：1,751 ha

倉永山林保全の会が整備  
を行っている山林面積

：2.3 ha

(東京ドームの約半分)

1

## 倉永山林保全の会 作業協力者



2



## 初めて参加した山林整備作業



## 教育・研修活動を利用したワールドキャンパス





## 荒廃した竹林の様子(1)



5

## 荒廃した竹林の様子(2)



6



# 景観が変わっていく山林



7

# 二人で準備を始めたころ



8



# 倉永山林保全の会 組織構成

- 会の発足 : 平成28年
- 構 成 員 : 6 名
- 地 権 者 : 14 名
- 作業協力者 : 20 名
- 活動面積 : 2.3 ha

9

## 平成28年度 収支報告

収入の部		支出の部	
活動推進費	150,000	作業資材	250,000
竹林整備	456,000	人件費	750,000
教育・研修	150,000	教育・研修費	150,000
資機材	624,000	資機材・借上げ	780,000
タケノコ出荷	250,000	保険料	50,000
役員借入金	1,200,000	作業道路整備	600,000
		雑 費	250,000
合 計	2,830,000	合 計	2,830,000

赤字が交付金の対象となる数字。収入-138万円、支出-198万円 60万円の赤字  
会計年度を過ぎて、タケノコ出荷が 250,000円ありますので繰越金としています

10

# チェーンソーの安全講習会



11

# 刈払機の安全講習会



12



# 移動のための山道が狭すぎる



13

# 移動のための山道が狭すぎる



14



## 山の整備を行うために必要な山道



15

## 安全講習会の実施



16



## 二人一組で安全確認を徹底



## 竹と樹木が混生している場所





# 大きな樹木の伐採は危険な作業



# 大きな樹木は処分が大変





# 教育・研修交付金の有効活用



## 山林からのご褒美



## 農林水産省 特用林産物生産統計調査

平成27年特用林産基礎資料  
タケノコの収穫

No	県名	生産量 (t)
1	福岡	7,388.2
2	鹿児島	5,781.9
3	熊本	4,181.4
4	京都	2,678.7
5	香川	1,473.1
6	徳島	1,131.1
7	愛媛	953.0
8	宮崎	928.5
9	大分	655.5
10	静岡	550.9
11	三重	378.5

平成28年特用林産基礎資料  
タケノコの収穫

No	県名	生産量 (t)
1	福岡	12,383.0
2	鹿児島	6,923.6
3	熊本	3,429.4
4	京都	2,713.2
5	静岡	1,538.8
6	香川	1,472.5
7	石川	860.8
8	宮崎	749.0
9	愛媛	733.4
10	三重	704.0
11	徳島	697.6

23

## 活用している主な資機材



チェーンソー



パワーショベル



木材粉碎機 (チップパー)



25 t エンジン薪割り機



目標に向かってダッシュ～



25

タケノコ出荷、今日は11万円でした



26



# 資機材の有効利用



27

# 資格を取得して安全作業を目指す



28



# 新入社員研修のお手伝い



29

# モニタリング調査の取り組み



30

## 今年度の目標

平成29年度のタケノコ出荷金額を  
200万円以上とする

竹林整備面積を拡大するための調査

作業協力者と、懇親会の開催を企画

31



32



森林・山村多面的機能発揮対策交付金

交付金の効果の調査・確認方法について  
(モニタリング調査の手引き)

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会

なぜモニタリング調査が必要なのか？

活動組織



活動、実施しました。  
山はよくなりましたよ。  
見てもらえればわかります！



林野庁



うーん、そう言われても  
全部見に行くわけにも  
いかないし…



モニタリングを  
実施しました。  
活動の成果は  
数値データで  
こうなっています。



なるほど、事業の成果が  
客観的にわかりますね。  
来年も予算確保しますよ。

## まず、活動の目標を確認しましょう。

### 地域環境保全タイプの例（1）

活動の目標	実施する作業	
混み合った林をすっきりして、健全な状態にしたい	間伐	
無立木地に樹を植えたい 植えた苗木をすくすく育てたい	植栽 下刈り	
高齢化した人工林を里山本来の広葉樹林に誘導したい	高齢化した木の伐採 天然更新した広葉樹の保護	



### 地域環境保全タイプの例（2）

活動の目標	実施する作業	
ササを刈り払って、広葉樹の天然更新を促進したい	ササ刈り	
森林内に散在する倒木、危険木、枯損木などを処理して、里山の景観をよくしたい	倒木処理 危険木、枯損木の伐採	
森林内を整備して、森林散策や森林学習を安全に実施できるようにしたい	上記に加え下草刈り 歩道の補修	
カタクリの群落を保護したい	ササ刈り 下草刈り	





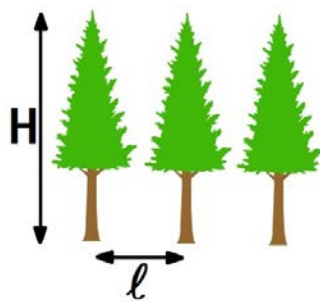
次に初回調査を実施して、  
数値目標とモニタリングの方法を決めます。

活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
混み合った林をすっきりして、健全な状態にしたい	間伐	木の混み具合 (相対幹距比)	相対幹距比 ○ポイント アップ	相対幹距比



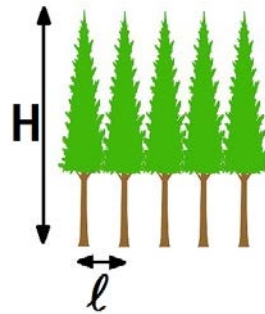
### 相対幹距比 (Sr) とは

上層木の平均樹高に対する樹木間の平均距離の割合で、林分の混み具合を表す指標です。



$$Sr = l/H$$

大きい



$$Sr = l/H$$

小さい



## 相対幹距比 (Sr) の特徴

- 調べるのが簡単→測るのは樹高と木の本数だけ
- 間伐した本数を数えれば効果がわかる
- 目標を決めれば、何本間伐すればよいかわかる

## 相対幹距比 (Sr) を調べるには…

- 対象森林の代表的な場所で調査区をとる  
→面積は100平方メートル、円形でも方形でもOK
- 樹高は調査区の上層木の代表的な木を1本だけ測る
- 調査区の中の木の本数を数える

## 円形調査区のととり方



① 釣り竿を使って半径  
5.65mの円を描きます。  
釣り竿と手の長さを合  
わせて5.65mになるように…

② 竿に当たる木の本数  
を数えます。

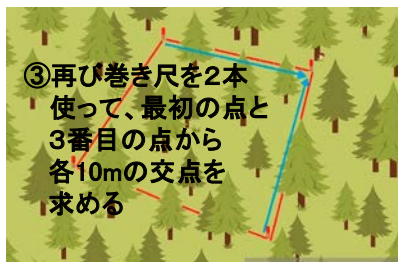
数えるのは上層を構成  
する木だけ。  
竿にかする程度の木  
は数えない。



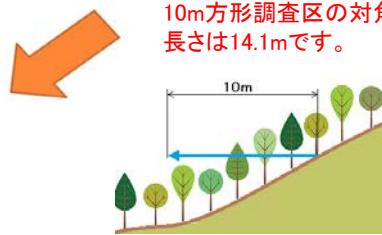
- ・ 傾斜地で行うときは竿を水平に…
- ・ 竿の代わりに5.65mに切ったひもを使っ  
てもよい。
- ・ 年次調査を同じ調査区で行うために、  
中心の木と、外周の木に印をつけておく。



## 方形調査区のとおり方



10m方形調査区の対角線の長さは14.1mです。

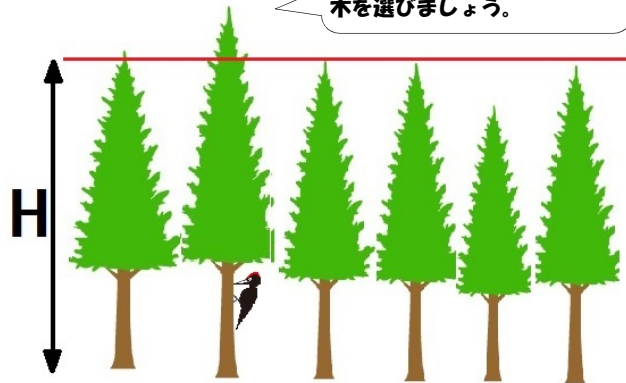


- ・傾斜地では水平に測ること。
- ・年次調査のために杭は残しておく。

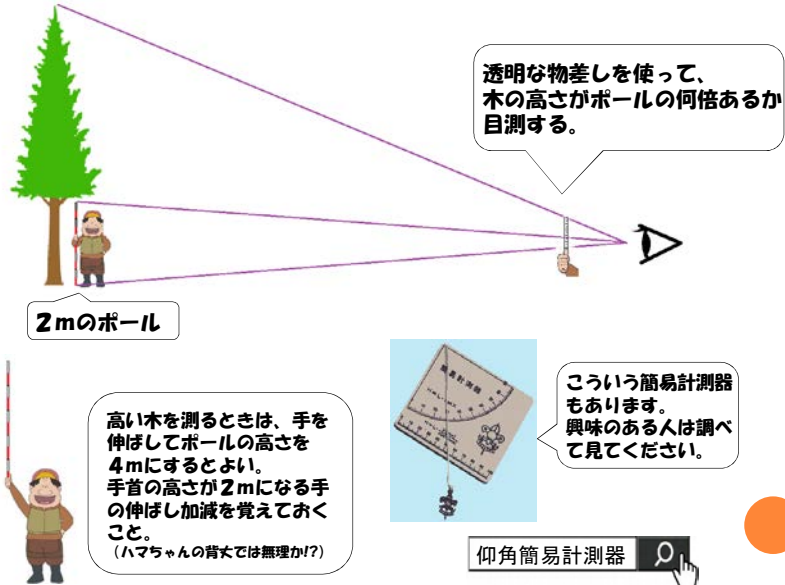


調査区の中で代表的な木を1本選び、樹高を測ります。

1番高い木は避ける。  
上層のうち、平均的な高さの木を選びましょう。



## 樹高の測り方

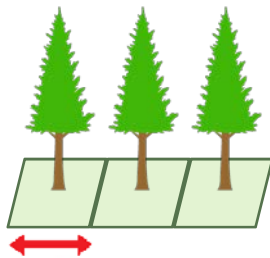


次に調査区の中の木の本数を数えます。(上層木のみ)

調査区の面積

$$100\text{m}^2 \div \text{本数} = \text{樹木1本当たりの面積}$$

$$\sqrt{\text{樹木1本当たりの面積}} = \text{樹木間の平均距離}(\lambda)$$



これで、相対幹距比(Sr)を計算する準備が整いました。



## 相対幹距比 (Sr) を計算してみましょう。

$$\text{相対幹距比 (Sr)} = \frac{\text{樹木間の平均距離} (\lambda)}{\text{樹高 (H)}} \times 100$$

## 目標の目安 針葉樹 17~20、広葉樹 20~25

### 【演習】

- ・現在の木数から〇本間伐したら、相対幹距比 (Sr) はどうなるか。
- ・現在の相対幹距比 (Sr) を〇ポイントアップするためには、何本間伐したらよいか。

## 初回調査、数値目標、モニタリングの方法の例

活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
無立木地に樹を植えた い	植栽 下刈り	植栽予定地の 植生	苗木の活着 率 (80%以 上)	目標対象種 (植栽木) の 生立本数
植えた苗木 をすくすく育 てたい		高木になる樹 木の本数  植えた苗木の 本数	目標対象種 (植栽木) の 生立本数	植栽した苗 木の長さ

- ・活動前は無立木地なので、相対幹距比の調査はできません。
- ・植栽木の生立本数だけをモニタリングすると、3年程度では変化がないか、減少する場合もあるので、苗木の高さも調べます。調査区の中の苗木を測って、平均をとります。

**注: 苗木の高さのみを目標とするは避けてください。(林野庁ガイドラインQ&A)**

- ・調査区は原則5×5mの方形区ですが、必要に応じて面積を大きくするか、調査区の数を増やしてください。

活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
高齢化した人工林を里山本来の広葉樹林に誘導したい	高齢化した木の伐採 天然更新した広葉樹の保護	相対幹距比 上層の針葉樹と広葉樹の割合 広葉樹の生立本数	目標対象種(広葉樹)の生立本数 上層の針葉樹と広葉樹の割合	相対幹距比 上層の針葉樹と広葉樹の割合 広葉樹の生立本数

- ・高齢化した人工林木は目標対象種ではないので、相対幹距比の目安は参考にならないかもしれません。気象害などに注意が必要です。
- ・広葉樹がまだ小さければ、上層の針葉樹と広葉樹の割合が変化するには時間がかかるかもしれません。その場合は、目標対象種である広葉樹の本数を数えましょう。〇〇cm以上に育ったものを数える、という基準を決めておきましょう。  
(例: 胸高以上、又は周囲のササや高茎草本の草丈+50cm)
- ・調査区のとり方については前のページと同じです。

活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
ササを刈り払って、広葉樹の天然更新を促進したい	ササ刈り	ササの侵入率 広葉樹の稚樹又はぼう芽の本数	ササの侵入率〇%以下 広葉樹の稚樹又はぼう芽の本数	ササの侵入率 広葉樹の稚樹又はぼう芽の本数

- ・稚樹又はぼう芽の本数を数えるときは、〇〇cm以上に育ったものを数える、という基準を 決めておきましょう。  
(例: 胸高以上、又は周囲のササや高茎草本の草丈+50cm)



活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
森林内に散在する倒木、危険木、枯損木などを処理して、里山の景観をよくしたい	倒木処理 危険木、枯損木の伐採	対象地内の倒木、危険木、枯損木の本数 相対幹距比	対象地内の倒木、危険木、枯損木をゼロにする	処理本数 目標に対する進捗率 相対幹距比

- ・林野庁のガイドライン(Q&A)では相対幹距比を調べることでされています。ただし、活動の成果は相対幹距比では示せないかもしれません。
- ・ガイドラインにはない数値目標とモニタリングの方法を採用する場合は、調査方法に関する情報の提出が必要です。(ガイドラインP.31)



活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
森林内を整備して、森林散策や森林学習を安全に実施できるようにしたい	倒木処理 危険木、枯損木の伐採 下草刈り 歩道の補修	対象地内の倒木、危険木、枯損木の本数 ササや下草が繁茂して入林が困難な面積(又は全体に対する割合) 相対幹距比	対象地内の倒木、危険木、枯損木をゼロにする 森林散策や森林学習に適したエリアを〇〇ha確保する	処理本数 目標に対する進捗率 森林散策や森林学習に適したエリアの面積 相対幹距比

- ・林野庁のガイドライン(Q&A)では相対幹距比を調べることでされています。ただし、活動の成果は相対幹距比では示せないかもしれません。
- ・ガイドラインにはない数値目標とモニタリングの方法を採用する場合は、調査方法に関する情報の提出が必要です。(ガイドラインP.31)



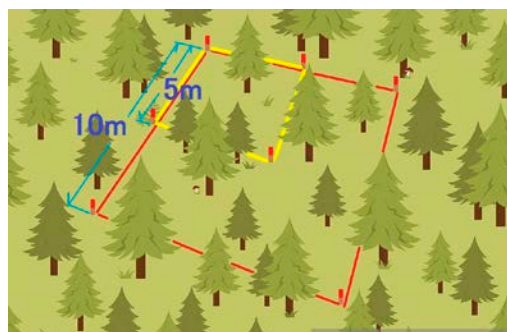
活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
カタクリの群落を保護したい	ササ刈り 下草刈り	目標対象種 (カタクリ)の個体数	目標対象種 (カタクリ)の個体数	目標対象種 (カタクリ)の個体数

- ・調査の時期が限定されるので注意が必要です。  
モニタリング結果報告書は、通常年度末に活動状況報告書と一緒に提出していただきますが、この例のように年度末に年次調査が実施できない場合は、年度末にはその事情を報告し、調査実施後にすみやかにモニタリング結果報告書を提出してください。



## 調査区の面積

- ・相対幹距比を測る場合は、調査区の面積を100平方メートルとします。円形、方形どちらでも結構です。
- ・希少種や指標種の植生調査の場合は、モニタリング・ガイドラインでは5m×5mでよいことになっています。
- ・しかし、調査区が小さくて森林の状態を代表していると思えない場合は、調査区を100平方メートルにするか、調査区を2箇所以上設定してください。



5m方形調査区  
の対角線の長さは  
7.1mです。





## 活動の目標を確認しましょう。

### 森林資源利用タイプの例

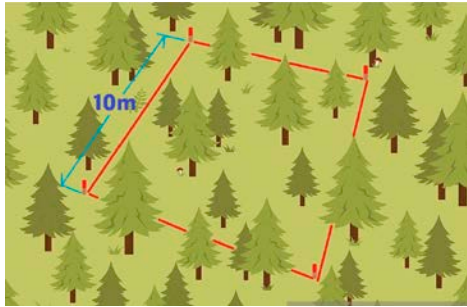
活動の目標	実施する作業	
伐期に達した人工林を伐採して利用し、その跡に次の世代の苗木を植えたい	伐採・搬出 植林	
木材を持続的に生産し、利用することで、里山の景観を維持したい	伐採・搬出 天然更新やぼう芽を促進する下草刈り	
森林から採ることのできる木材以外の資源を、持続的に生産し、利用したい	資源の採取 採取量を維持又は増大するための森林の整備	

### 初回調査、数値目標、モニタリングの方法の例

活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
伐期に達した人工林を伐採して利用し、その跡に次の世代の苗木を植えたい	伐採・搬出 植林	資源量 (立木幹材積)	年間の資源 利用量	年間の資源 利用量
木材を持続的に生産し、利用することで、里山の景観を維持したい	伐採・搬出 天然更新や ぼう芽を促進する下草刈り	資源量 (立木幹材積)	年間の資源 利用量	年間の資源 利用量

## 資源量の調べ方

- ・  $10 \times 10\text{m}$  (100平方メートル) の方形調査区、又は半径5.65mの円形調査区を設定します。



## 資源量の調べ方

- ・ 主に利用する樹種について、調査区の中の木の本数と、直径6cm以上の全ての木の胸高直径を測ります。
- ・ 直径を測るためには、次のような道具を使います。
- ・ 計測は、地上から1.3mの高さ(傾斜地では山側)で行い、結果は2cm単位で丸めます。

直径6cm未満の木や  
利用しない樹種  
(かん木など)は  
測らない。



### 直径巻き尺

- ・ 木の外周を測ると直径が読み取れる巻き尺です。
- ・ なければ普通の巻き尺で外周を測って、円周率で割れば計算できます。



### 林尺

- ・ 大きなノギスです。



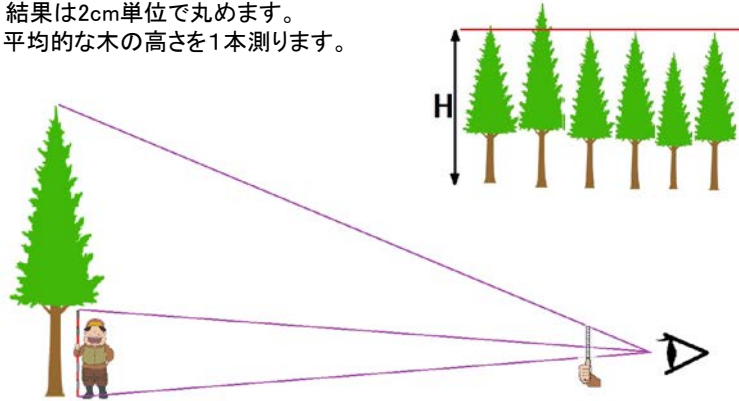
1本ずつ計算する必要はありません。外周の  
平均値をとって、最後に円周率で割ります。





## 資源量の調べ方

- ・測定した胸高直径の平均を求めます。  
結果は2cm単位で丸めます。
- ・平均的な木の高さを1本測ります。



これで、資源量(幹材積量)を計算する準備が整いました。

## 資源量の調べ方

- ・立木幹材積表を使って、平均胸高直径と樹高から立木の幹材積を求めます。
- ・幹材積表は、広葉樹用、針葉樹用、カラマツ用があります。

広葉樹立木幹材積表

樹高 (m)	胸高直径 (cm)							
	6	8	10	12	14	16	18	20
2	0.005	0.01	0.02	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06
3	0.006	0.01	0.02	0.02	0.04	0.05	0.06	0.07
4	0.008	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.07	0.08
5	0.009	0.02	0.02	0.03	0.04	0.06	0.07	0.09
6	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06	0.08	0.10
7	0.01	0.02	0.03	0.04	0.06	0.07	0.09	0.11
8	0.01	0.02	0.03	0.05	0.06	0.08	0.10	0.12
9	0.01	0.02	0.04	0.05	0.07	0.09	0.11	0.14
10	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.12	0.15
11	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.11	0.13	0.17
12	0.02	0.03	0.05	0.07	0.09	0.12	0.15	0.18
13	0.02	0.03	0.05	0.07	0.10	0.12	0.16	0.19
14	0.02	0.04	0.05	0.08	0.10	0.13	0.17	0.21
15	0.02	0.04	0.06	0.08	0.11	0.14	0.18	0.22
16	0.02	0.04	0.06	0.09	0.12	0.15	0.19	0.24
17	0.03	0.04	0.06	0.09	0.12	0.16	0.20	0.25
18	0.03	0.04	0.07	0.10	0.13	0.17	0.21	0.26
19	0.03	0.05	0.07	0.10	0.14	0.18	0.22	0.28
20	0.03	0.05	0.08	0.11	0.14	0.19	0.23	0.29

樹高 (m)	胸高直径				
	22	24	26	28	30
6	0.12	0.14	0.17	0.20	0.23
7	0.14	0.16	0.19	0.22	0.25
8	0.15	0.18	0.21	0.24	0.27
9	0.17	0.20	0.23	0.26	0.29
10	0.18	0.22	0.25	0.28	0.31
11	0.20	0.24	0.28	0.32	0.36
12	0.22	0.26	0.30	0.34	0.38
13	0.23	0.28	0.32	0.36	0.40
14	0.25	0.30	0.35	0.39	0.43
15	0.27	0.32	0.37	0.41	0.45
16	0.28	0.34	0.40	0.45	0.50
17	0.30	0.36	0.42	0.47	0.52
18	0.32	0.38	0.44	0.49	0.54
19	0.33	0.40	0.46	0.51	0.56
20	0.35	0.42	0.49	0.54	0.59
21	0.37	0.44	0.51	0.56	0.61
22	0.38	0.45	0.53	0.58	0.63
23	0.40	0.47	0.55	0.60	0.65
24	0.41	0.49	0.58	0.63	0.68
25	0.43	0.51	0.60	0.65	0.70

例えば、  
胸高直径20cm、  
樹高15mの広葉樹  
なら、  
表からその交点の  
幹材積  
「0.22立方メートル」  
を読みとることができます。

- ・求めた値が調査区の樹木1本の平均幹材積となります。

## 資源量の調べ方

・次式で資源量を求めます。

$$1 \text{本当たりの平均幹材積} \times \text{調査区内の木の木の本数} \\ = \text{調査区の資源量(幹材積量)}$$

$$\text{調査区の資源量} \times \text{対象森林の面積} / \text{調査区の面積} \\ = \text{対象森林の資源量(幹材積量)}$$

・広葉樹と針葉樹やカラマツが混じって生えている場合は、それぞれ別々に計算して、合算します。

・ここで紹介した方法は、簡略化した方法です。

・調査区内の全ての木について胸高直径、樹高を測定し(「毎木調査」といいます)、1本づつ幹材積を求めて、それを合計して調査区の資源量とする方法もあります。(この方が精度は高い)

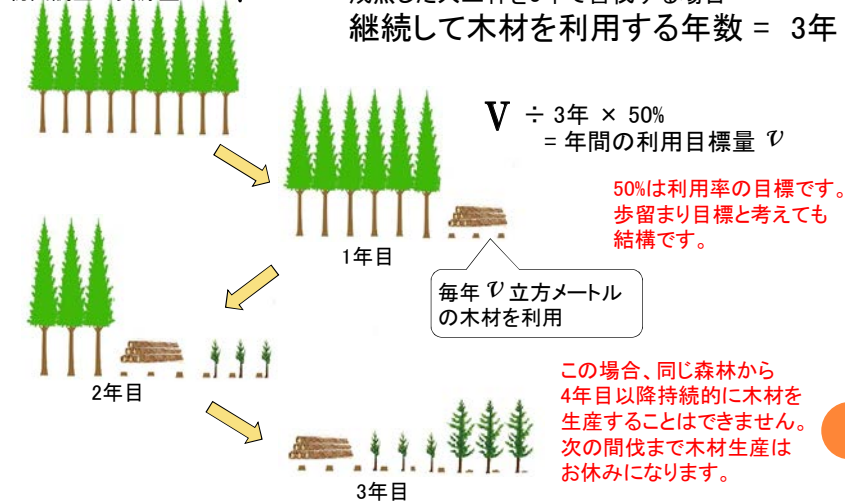
毎木調査法を実施したい場合、測定値を入力すると、資源量が自動的に算出できるExcelソフトがありますので、ご希望の方は協議会事務局にご相談ください。

## 数値目標の設定(1)

$$\text{資源量} \div \text{継続して木材を利用する年数} \times 50\% = \text{年間の利用目標量}$$

初回調査の資源量 =  $V$

成熟した人工林を3年で皆伐する場合  
継続して木材を利用する年数 = 3年





## 数値目標の設定 (2)

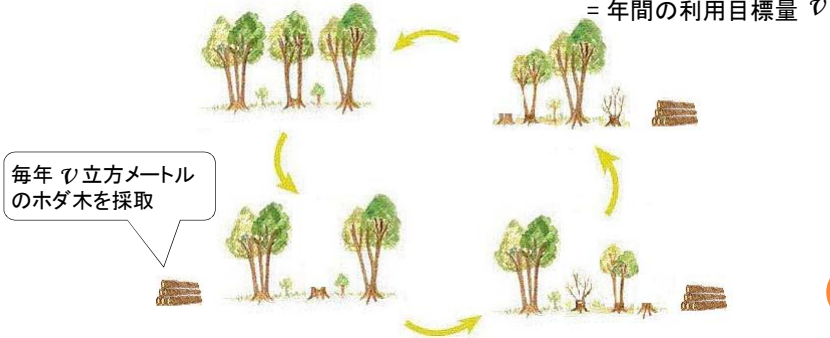
$$\text{資源量} \div \text{継続して木材を利用する年数} \times 50\% = \text{年間の利用目標量}$$

広葉樹林の伐採・ぼう芽更新を繰り返して、同じ森林から毎年、持続的に木材を利用する場合、例えば、ホダ木なら20~30年で循環するようにします。

継続して木材を利用する年数 20年

$$\text{初回調査の資源量} = V$$

$$V \div 20年 \times 50\% = \text{年間の利用目標量 } \psi$$



## 数値目標の設定 (3)

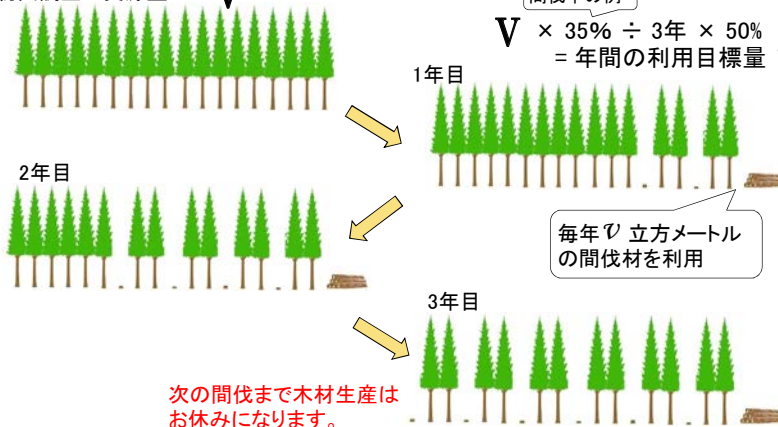
$$\text{資源量} \div \text{継続して木材を利用する年数} \times 50\% = \text{年間の利用目標量}$$

人工林を3年で間伐し、間伐材を利用する場合  
継続して木材を利用する年数 = 3年

$$\text{初回調査の資源量} = V$$

$$V \times 35\% \div 3年 \times 50\% = \text{年間の利用目標量 } \psi$$

間伐率の例



## 年間利用目標量（V）を計算してみましょう。

対象森林の面積            ha    調査区 5×5mの方形

調査区の森林の状況

広葉樹  本、樹高  m、平均胸高直径  cm

$$\begin{array}{ccccccc} \text{1本の幹材積} & & \text{本数} & & \text{調査区の資源量} & & \\ \hline \text{} & \times & \text{} & = & \text{} & \text{m}^3 & \end{array}$$

$$\begin{array}{ccccccc} \text{調査区の資源量} & \text{対象森林の面積} & \text{調査区の面積} & \text{対象森林の資源量} & & & \\ \hline \text{} & \times & \text{} & / & \text{} & = & \text{} \text{m}^3 \end{array}$$

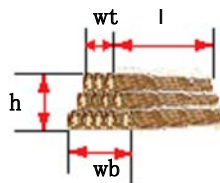
$$\begin{array}{ccccccc} \text{対象森林の資源量} & \text{継続して利用する年数} & \text{年間利用目標量} & & & & \\ \hline \text{} & / & \text{} & \times & 50\% & = & \text{} \text{m}^3 \end{array}$$

### 【演習】

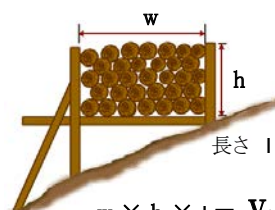
・資源量  m<sup>3</sup>の広葉樹林から毎年 m<sup>3</sup>のホダ木を採取している。森林の状況を維持しながら、この収穫を続けていくことができるなら、継続して利用する年数(1循環)は何年になるか。

## 採取した原木の材積の測定

まず、積み上げた原木の見かけの材積を求めます。



$$(wt + wb) / 2 \times h \times l = V_m$$



$$w \times h \times l = V_m$$

$V_m$  … 見かけの材積。丸太の隙間を含んだ材積。層積、ガサ材積などとも言う

$$V_m \times 0.625 (\text{換算係数}) = V_t (\text{実材積})$$

0.625は薪の材積換算に使われる一般的な係数です。  
地域で実際に使われている係数があれば、それを使用してもよい。



毎回材積を測る必要はありません。  
例えば、搬出に使う軽トラック1杯分の材積をあらかじめ測っておき、あとは積み出した回数を乗じて利用量を算出してもよい。



## 初回調査、数値目標、モニタリングの方法の例

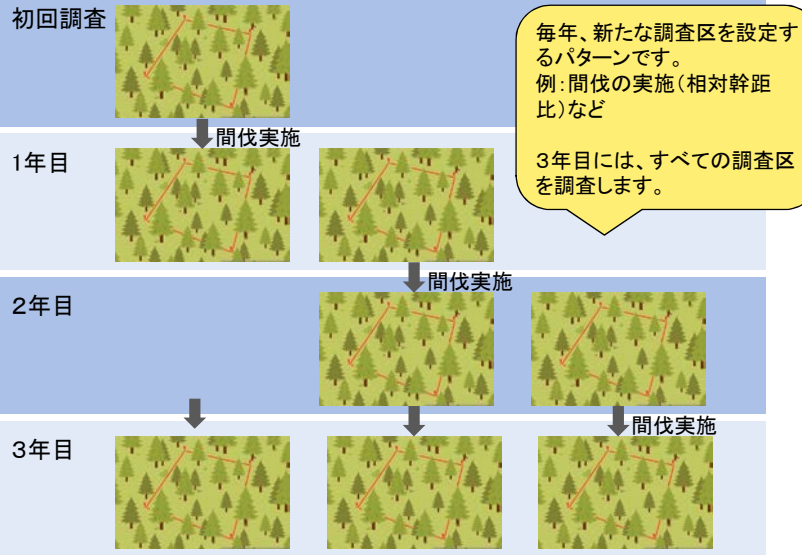
活動の目標	実施する作業	初回調査	数値目標	モニタリング (年次調査)
森林から採ることのできる木材以外の資源を、持続的に生産し、利用したい	資源の採取  採取量を維持又は増大するための森林の整備	調査区の植生  利用対象となる種の生育状況  利用可能な資源の見込量	年間の資源利用量  利用対象となる種の生育状況	年間の資源利用量  利用対象となる種の生育状況

- ・利用する資源としては、きのこ、山菜、樹液、樹皮などが考えられます。
- ・年による変動が大きくて、目標を立てづらい場合があります。資源の利用量は増加か、持続的に維持する目標を立てなければなりません。
- ・森林整備をしてもすぐに利用量増加に結びつかない場合もあります。例えば樹液を採取するためにシラカバを植栽しても、3年では採取できるようにはなりません。そのような場合は、利用対象種の生育状況を調査しましょう。

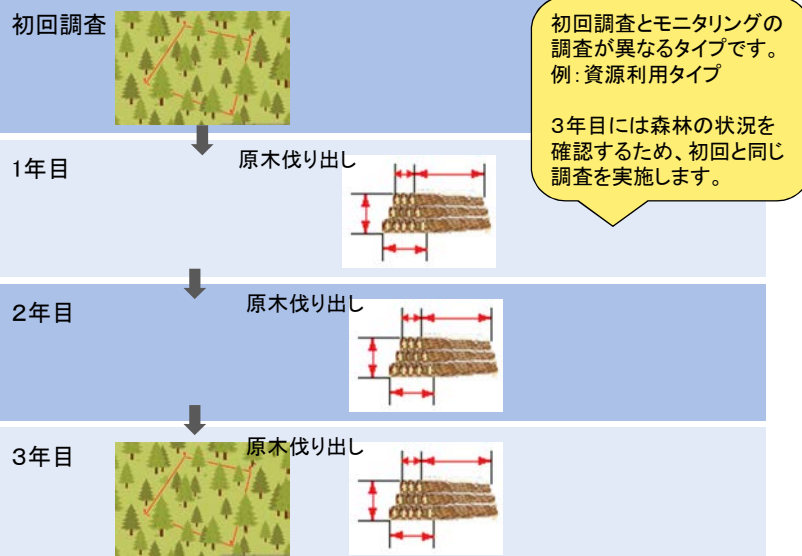
## モニタリングのパターン（1）



## モニタリングのパターン（2）



## モニタリングのパターン（3）





## 数値目標の設定

3年後の数値目標は必ず設定します。  
増える目標、維持する目標、減っていく目標などがあります。  
活動の目的に応じた数値目標を設定しましょう。

### 増える目標

**相対幹距比**—間伐を実施すれば増加します。

**植栽木の生立本数**—無立木地に植栽すれば、皆増です。過去の植栽地を保育・手入れしていく場合は維持する目標になります。

### 維持する目標

**資源の利用量**—安定して採取・利用を続ける場合は維持する目標、採取量増加のために森林整備などを行う場合は増える目標になります。

### 減少する目標

倒木、危険木、枯損木の本数  
ササの侵入率など

## その他の注意事項

### タイプ別の目標の設定

地域環境保全タイプ(里山林保全)と森林資源利用タイプの両方を実施する計画の場合、それぞれ対象とする森林や目的が異なるため、それぞれに初回調査、目標の設定、モニタリングが必要になります。

### 対象森林が複数箇所に分散している場合

原則、全ての活動地で初回調査、モニタリングを行う必要がありますが、対象森林の状況が同じ場合は、代表的な箇所で調査を実施してもよい。(林野庁ガイドラインQ&A No.3-④)

### 調査数値の単位

調査結果が実数(本数や材積など)で表される場合、数値が調査区内のものか、ha当たりの数量なのか、対象森林全体の数量なのか、単位を明記してください。

## 活動計画書の記載例

平成29年度の採択申請にあたり、活動計画書の8を空欄で提出している活動組織は、初回調査を実施後すみやかに目標とモニタリング方法を決定し、提出してください。

8. 活動の目標と結果を測定するためモニタリング方法（地域環境保全タイプ及び森林資源利用について記載）

タイプ名	目標	モニタリング方法
地域環境保全タイプ	無立木地に樹を植えたい 【数値目標】 植栽木の生立本数ha当り2千本	植栽木の生立本数を確認
森林資源利用タイプ	広葉樹の里山から木材を持続的に生産・利用したい 【数値目標】 対象森林全体で年間〇〇m <sup>3</sup> 利用	森林から搬出され利用される木材の量を確認

(注) 目標の設定及びモニタリング方法の記載については、別に定めるガイドランを参考とすること。

目標とモニタリング方法は、活動のタイプ別にそれぞれ記載してください。

数値目標は必ず記載してください。単位を明記するのを忘れずに…

## モニタリング結果報告書の記載例

(様式第19号)

平成29年度 モニタリング結果報告書

### 1 活動の目標

林床を覆う笹の刈りこみにより天然更新（下種更新）される森を目指す。  
【数値目標】 笹の侵入率 30%以下

数値目標は必ず記載してください。

### 2 活動実施前の標準地の状況（平成29年度）

写真

林床が笹に覆われ下種更新が期待できない状態。侵入率は100%。笹の背丈は約90cm。下種更新の実生は確認できない。  
29年5月14日実施



初回調査の結果を簡潔に記載し、写真を添付。必要に応じて調査データを添付してください。



## 森林・山村多面的機能発揮対策事業

### 事務処理説明会(プロット調査)

平成29年9月1日(金)  
えがお健康スタジアム 106会議室

熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会

1

## 1.現場で準備する物

- 1) **杭**(円形 1本、方形 4本)
- 2) **スケール** (5m以上図れるもの)
- 3) **測竿ポール**(釣り竿又は竹竿等)・・・円形
- 4) **ビニール紐**(方形の外側に張る)・・・方形
- 5) **樹高測定器具**
- 6) **筆記用具**
- 7) **野帳**(計測した数値を記入する紙)

2

## 2.プロットの設定

- プロットをどこに設定すればいいのか？
- 1) 整備地全体を見て**平均的なところ**  
(立木が密集してなくて、空き過ぎてない)
- 2) 立木、立竹だけでなく、**地形も平均的**  
(今後も経過観察できるところ)
- 3) **1年目に整備するところ**

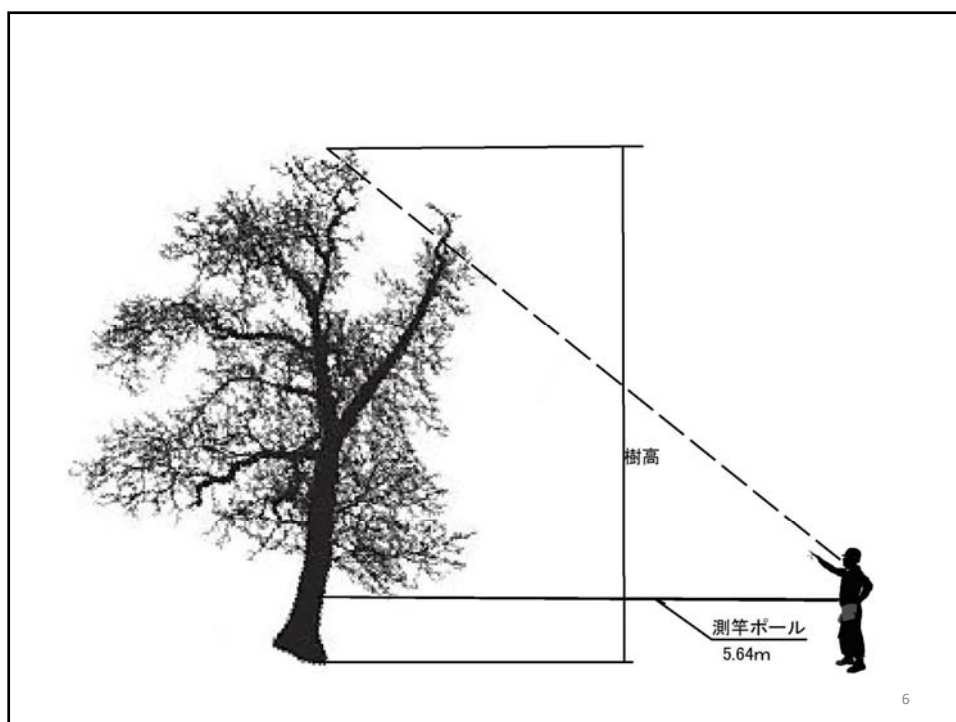
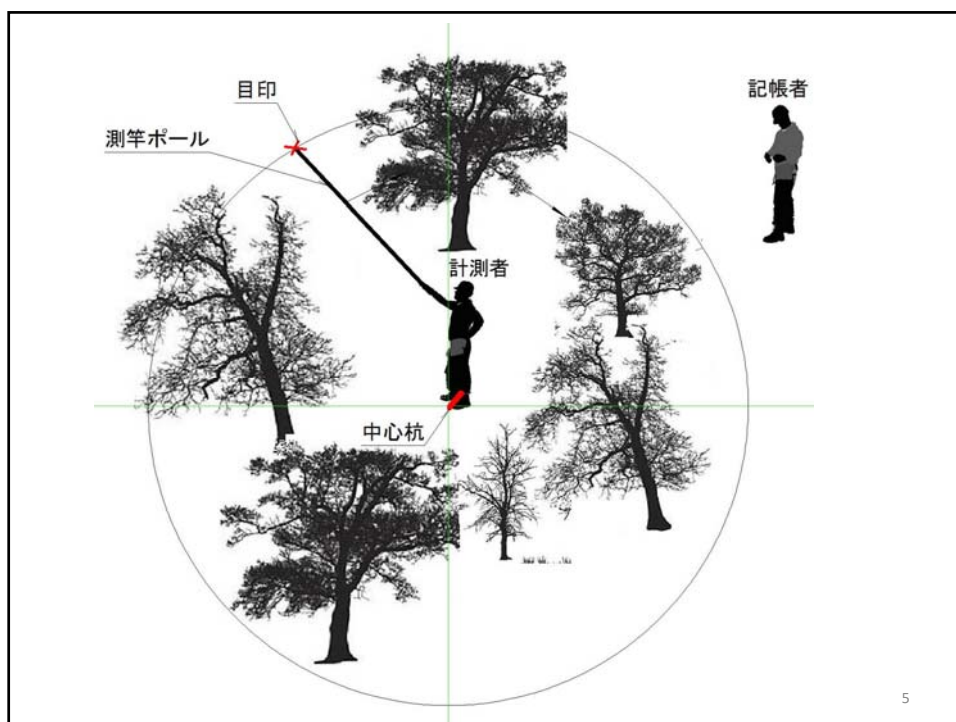
3

## 3.円形100m<sup>2</sup>プロット(里山保全)

- 1) **中心に杭を設置**
- 2) 杭の上に立ち**測竿ポールを水平に倒す**
- 3) 倒した**先端に印**
- 4) 右周りに**ポールに当たる本数**を数える
- 5) **平均的な高さの木の樹高**を測定

4

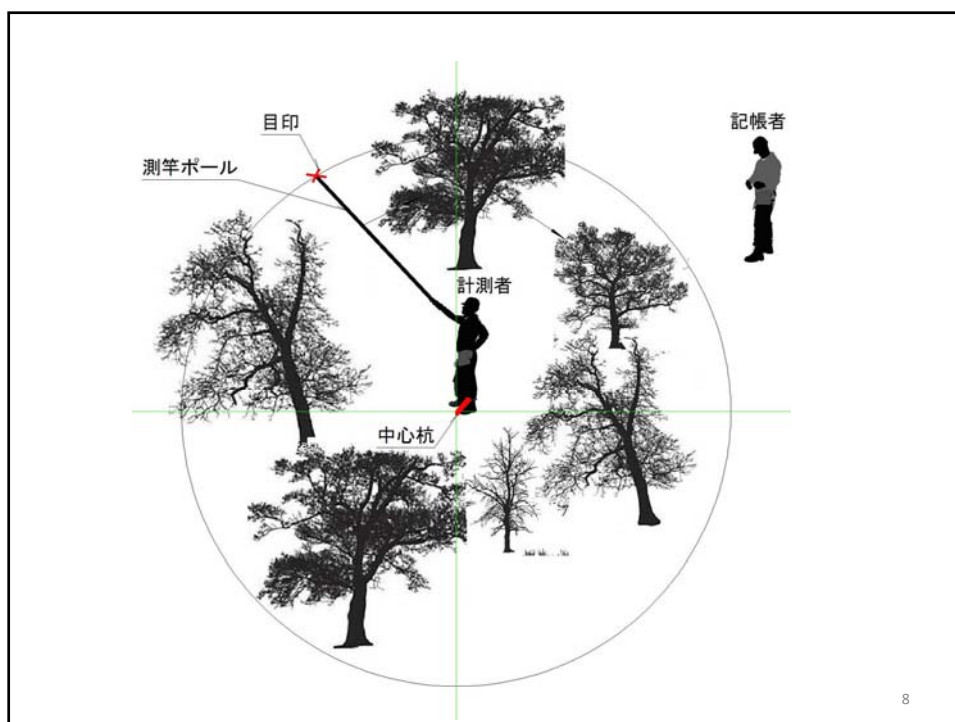




#### 4.円形プロット100m<sup>2</sup>(資源利用タイプ)

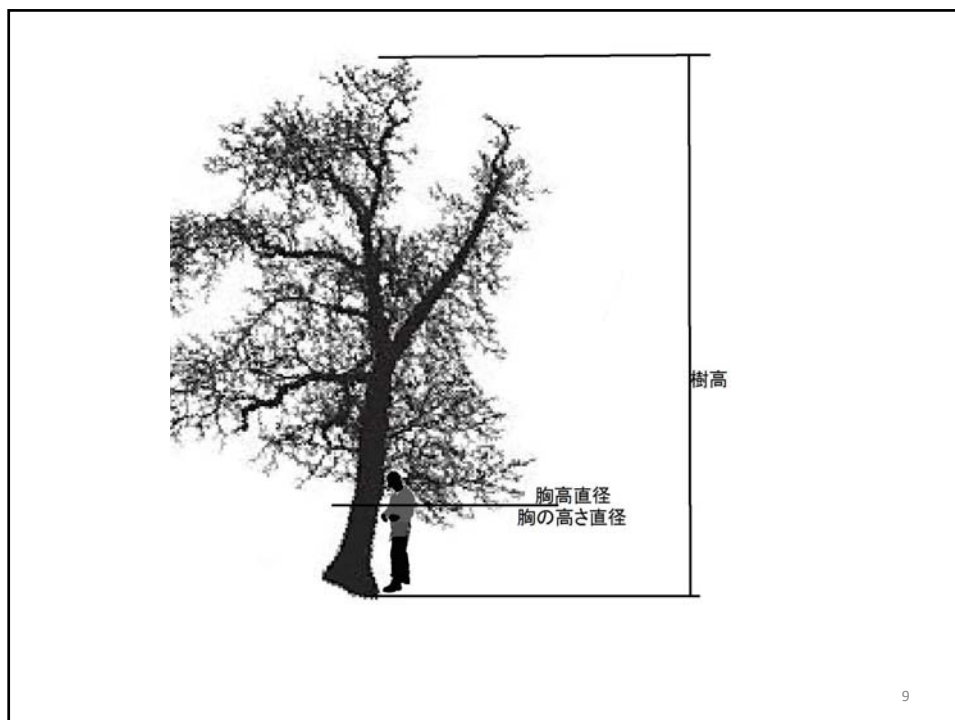
- 1) 中心に杭を設置
- 2) 杭の上に立ち測竿ポールを水平に倒す
- 3) 倒した先端に印
- 4) 右周りにポールに当たる樹種調べる
- 5) 樹高・胸高直径も調べる(プロット内全部)

7



8

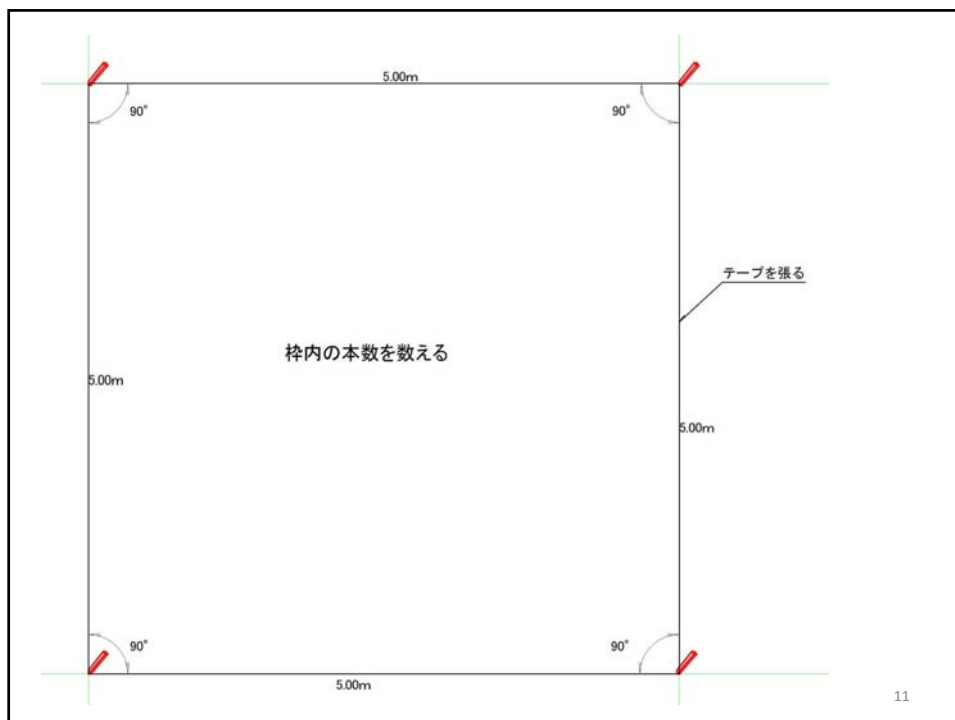




## 5. 方形(5m × 5m)プロット(竹林)

- 1) 1本杭を設置
- 2) 90° 方向の両サイド5m地点に2本杭を設置
- 3) その杭から90° 方向に5m地点に杭を設置
- 4) 杭にビニール紐を結び、囲む
- 5) 囲んだ中の本数を数える

10



## 5.かえって来てからの整理

- 1) それぞれの計測数値を野帳に整理  
※ 別添モニタリング報告書参照
- 2) 現状を把握し、整備目標を決める
- 3) 事業終了時に同じ箇所で同じことを行う

12



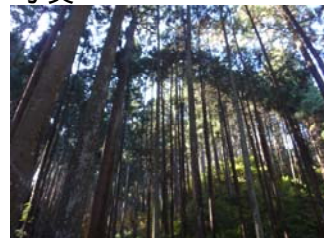
## 1 活動の目標

相対幹距比2ポイント以上改善し、里山の高木林、大径木林を育成したい。なお、伐採率は急な環境変化が起きないように30%以内としたい。

## 2 活動実施前の標準地の状況(平成29年度)

標準地の状況を記載	成立本数： 1000 本/ha
	平均樹高： 22.5 m
相対幹距比	相対幹距比： 14.1
20程度 適当	目標相対幹距比： 17
17～14 密	目標本数： 683 本/ha
14以下 非常に密	伐採率 31.7 %
	伐採本数 317 本/ha

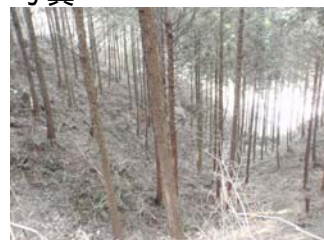
写真



## 3 活動1年目の標準地の状況(平成29年度)

標準地の状況を記載	成立本数： 900 本/ha
	目標本数： 683 本/ha
	目標残本数： 217 本/ha
	伐採率 10 %
目標達成度	ha当たり217本伐採が未達成
次年度に向けた改善策	次年度でha当たり100本の伐採、集積を行う。

写真



## 4 活動2年目の標準地の状況(平成30年度)

標準地の状況を記載	成立本数： 800 本/ha
	目標本数： 683 本/ha
	目標残本数： 117 本/ha
	伐採率 11.1 %
目標達成度	ha当たり117本伐採が未達成
次年度に向けた改善策	次年度でha当たり100本の伐採、集積を行う。

写真

5 活動3年目の標準地の状況(平成31年度)

写真

標準地の状況を記載	成立本数： 700 本/ha 目標本数： 683 本/ha 目標残本数： 17 本/ha 伐採率 12.5 %
目標達成度	ha当たり17本伐採が未達成
次年度に向けた改善策	ほぼ目標に達したが、今後は相対幹距比が20程度になるよう管理を行って行く

6 活動4年目の標準地の状況(平成32年度)

写真

標準地の状況を記載	成立本数： 0 本/ha 目標本数： 683 本/ha 目標残本数： -683 本/ha 伐採率 100 %
目標達成度	
次年度に向けた改善策	

7 活動5年目の標準地の状況(平成33年度)

写真

標準地の状況を記載	成立本数： 0 本/ha 目標本数： 683 本/ha 目標残本数： -683 本/ha 伐採率 ##### %
目標達成度	

(注) 目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。















## 1 活動の目標

竹の本数を1haあたり2,500本～4,000本程度にし、タケノコが利用できる竹林にしたい

## 2 活動実施前の標準地の状況(平成 29 年度)

標準地の状況を記載	プロット内本数 :	21 本
	ha当たり本数 :	8,400 本/ha
	目標本数 :	4,000 本/ha
	伐採本数	4,400 本/ha
	プロット内伐採本数	11 本

写真



## 3 活動1年目の標準地の状況(平成30 年度)

標準地の状況を記載	プロット内本数 :	15 本
	ha当たり本数 :	6,000 本
	目標本数 :	4,000 本
	未達成本数 :	2,000 本
目標達成度	ha当たり2,000本伐採が未達成	
次年度に向けた改善策	次年度でha当たり1,000本の伐採、集積を行う。	

写真



## 4 活動2年目の標準地の状況(平成 31 年度)

標準地の状況を記載	プロット内本数 :	0 本
	ha当たり本数 :	0 本
	目標本数 :	0 本
	未達成本数 :	0 本
目標達成度		
次年度に向けた改善策		

写真

5 活動3年目の標準地の状況(平成32年度)

写真

標準地の状況を記載	プロット内本数 :	0 本
	ha当たり本数 :	0 本
	目標本数 :	0 本
	未達成本数 :	0 本
目標達成度		
次年度に向けた改善策		

6 活動4年目の標準地の状況(平成33年度)

写真

標準地の状況を記載	プロット内本数 :	0 本
	ha当たり本数 :	0 本
	目標本数 :	0 本
	未達成本数 :	0 本
目標達成度		
次年度に向けた改善策		

7 活動5年目の標準地の状況(平成34年度)

写真

標準地の状況を記載	プロット内本数 :	0 本
	ha当たり本数 :	0 本
	目標本数 :	0 本
	未達成本数 :	0 本
目標達成度		

(注) 目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。





## 1 活動の目標

木質資源を持続的に生産し、年間で利用目標量（森林の材積量÷継続して木材を利用する年数）の50%以上を利用したい。

## 2 活動実施前の標準地の状況(平成29年度)

標準地の状況を記載	成立本数： 11 本
	森林の材積： 2.8777 m <sup>3</sup>
	木材利用年数 3 年
	目標使用材積： 0.9592 m <sup>3</sup>

写真



## 3 活動1年目の標準地の状況(平成29年度)

標準地の状況を記載	成立本数： 7
	伐採本数： 4
	目標使用材積： 0.9592 m <sup>3</sup>
	使用材積： 0.5608 m <sup>3</sup>
目標達成度	利用目標量に対し1.2176m <sup>3</sup> 伐採が未達成
次年度に向けた改善策	次年度で1.2176m <sup>3</sup> の伐採、集積を行い、最終年度で搬出。

写真



## 4 活動2年目の標準地の状況(平成30年度)

標準地の状況を記載	成立本数： 4
	伐採本数： 3
	目標使用材積： 0.9592 m <sup>3</sup>
	使用材積： 1.3296 m <sup>3</sup>
目標達成度	
次年度に向けた改善策	

写真



5 活動3年目の標準地の状況(平<sub>レ</sub>31年度)

標準地の状況を記載	成立本数： 2 伐採本数： 2 目標使用材積： 0.9592 m <sup>3</sup> 使用材積： 0.3463 m <sup>3</sup>
目標達成度	
次年度に向けた改善策	

写真



6 活動4年目の標準地の状況(平<sub>レ</sub>32年度)

標準地の状況を記載	
目標達成度	
次年度に向けた改善策	

写真

7 活動5年目の標準地の状況(平<sub>レ</sub>33年度)

標準地の状況を記載	
目標達成度	

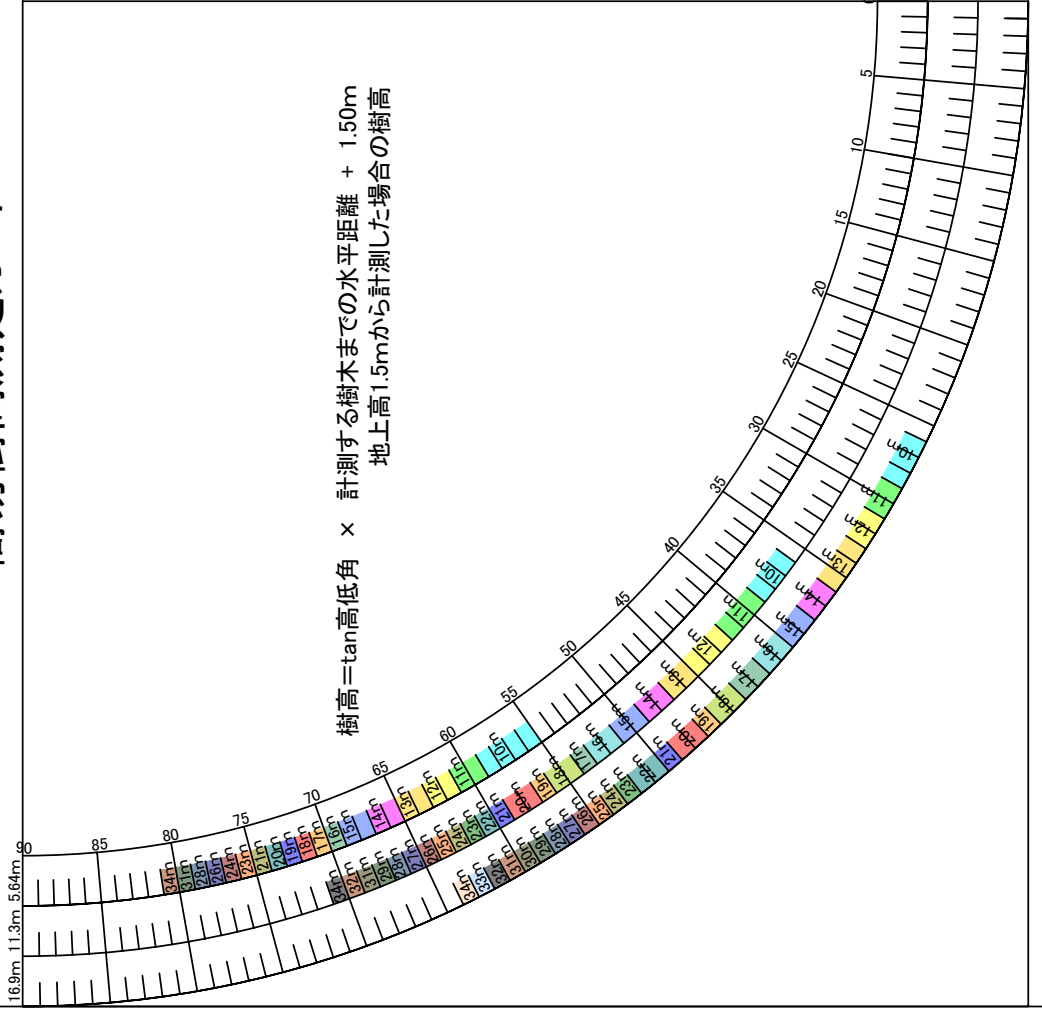
写真

(注) 目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。

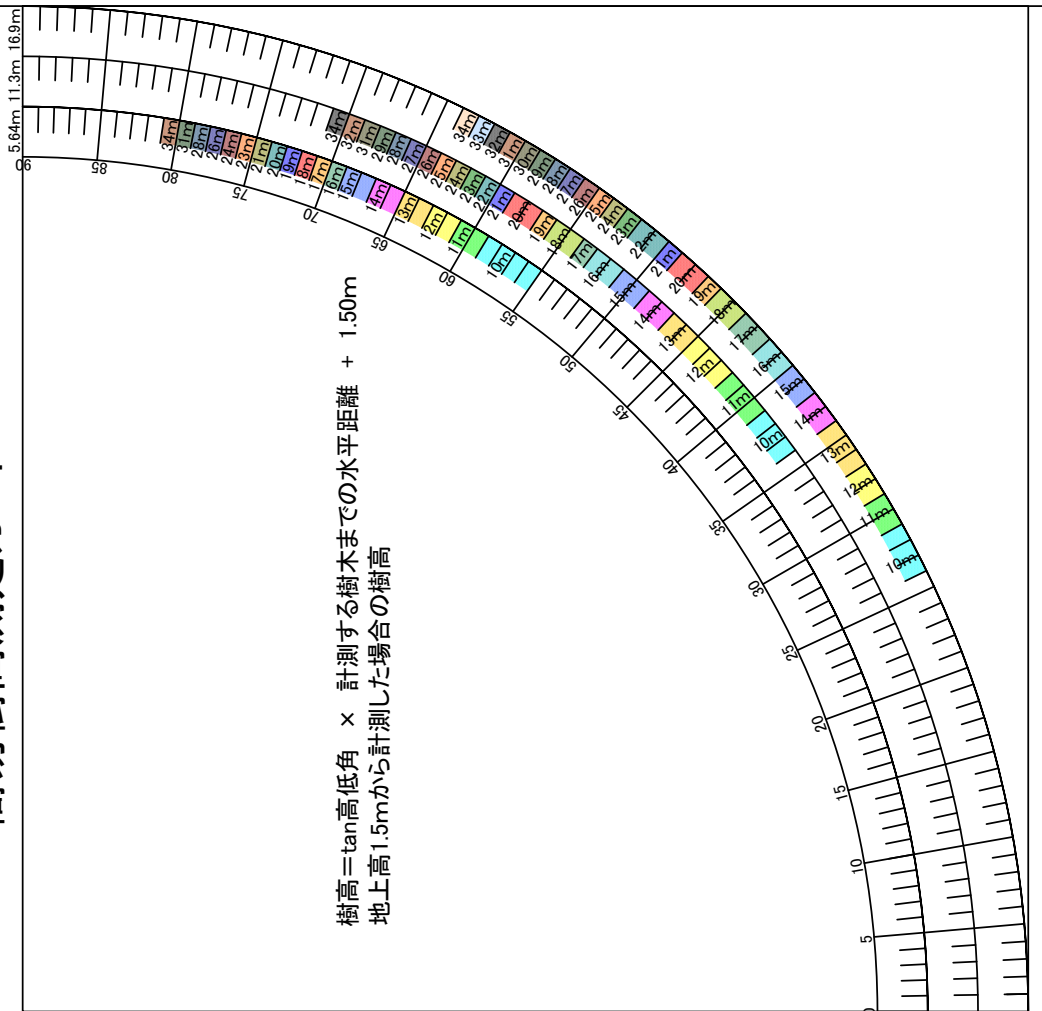




△ 木の先端に合わせる  
簡易樹高測定カード  
△ こちから見る



△ 木の先端に合わせる  
簡易樹高測定カード  
△ こちから見る



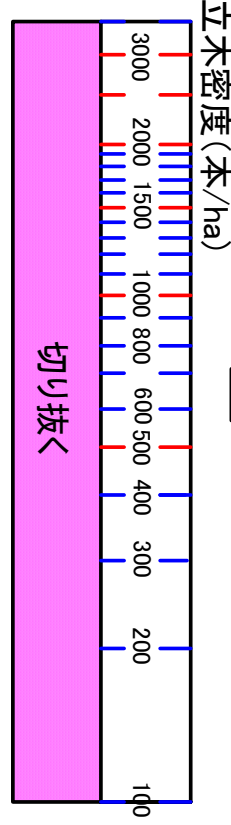
## 相対幹距比早見カードの使い方

1. 調べたい林分の平均樹高 (m) と立木密度 (本/ha) を測定します
2. カード上段の矢印に測定した樹高を合わせる。
3. 下段で調べたい林分の立木密度 (本/ha) を探します。
4. 林分の立木密度の下の枠内の数値が、その林分の相対幹距比となります。(混み具合に応じて、相対幹距比を色分けしています)

相対幹距比の目安

Sr = 20程度: 適正
Sr = 14 ~ 17: 密
Sr = 14以下: 過密

相対幹距比 (Sr)



相対幹距比早見カード

樹高

のり

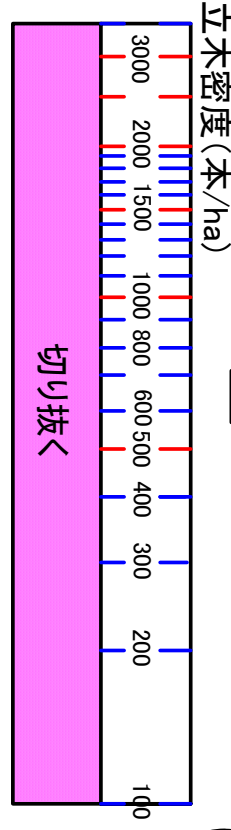
## 相対幹距比早見カードの使い方

1. 調べたい林分の平均樹高 (m) と立木密度 (本/ha) を測定します
2. カード上段の矢印に測定した樹高を合わせる。
3. 下段で調べたい林分の立木密度 (本/ha) を探します。
4. 林分の立木密度の下の枠内の数値が、その林分の相対幹距比となります。(混み具合に応じて、相対幹距比を色分けしています)

相対幹距比の目安

Sr = 20程度: 適正
Sr = 14 ~ 17: 密
Sr = 14以下: 過密

相対幹距比 (Sr)

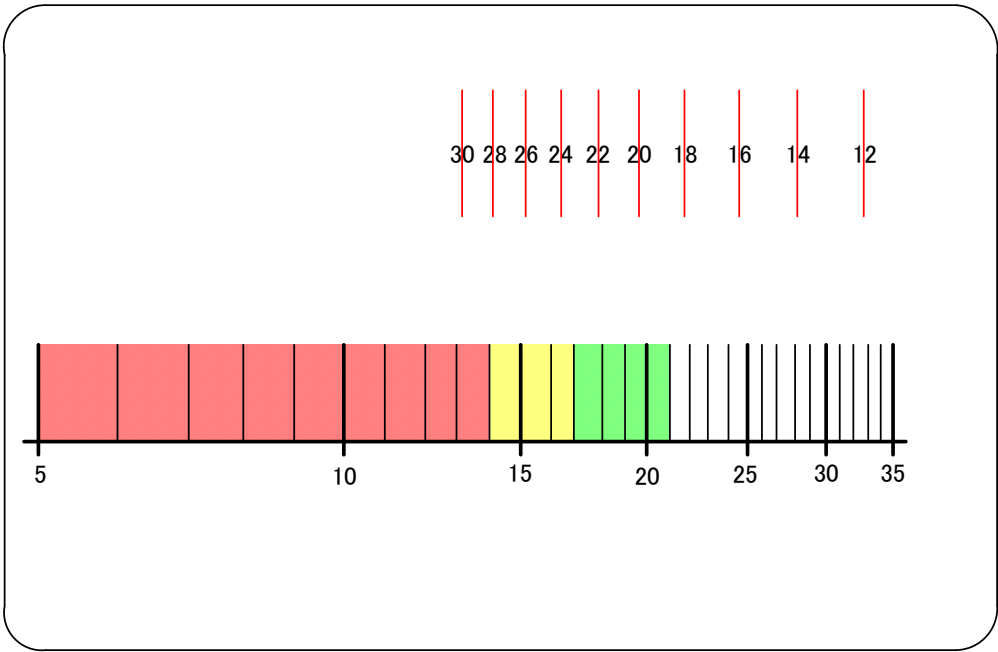
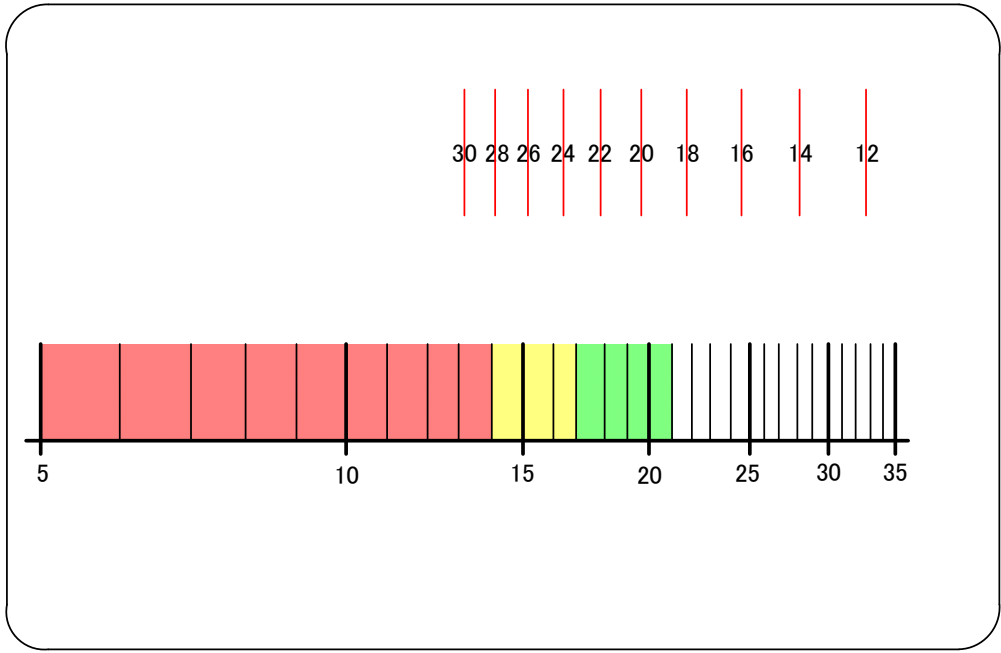


相対幹距比早見カード

樹高

のり





# 森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナーアンケート

このたびは「森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー」にご参加いただき、誠にありがとうございます。今後の情報提供等に当たっての参考とさせていただきます。アンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

該当する箇所に○印をつけてください

【ご所属】 1、都道府県 2、地域協議会 3、その他（ ）

Q1：「活動組織の活動事例報告」の感想を教えてください。

- 1、大変参考になった      2、参考になった      3、ふつう  
4、あまり参考にならなかった      5、参考にならなかった

Q2：「モニタリング関係アンケート結果の概要」の感想を教えてください。

- 1、大変参考になった      2、参考になった      3、ふつう  
4、あまり参考にならなかった      5、参考にならなかった

Q3：パネルディスカッションの感想を教えてください。

- 1、大変参考になった      2、参考になった      3、ふつう  
4、あまり参考にならなかった      5、参考にならなかった

Q4：参加してのご感想、ご意見を記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

※ご記入いただきました個人情報は、本セミナーの運営管理ならびに平成 29 年度森林・山村多面的機能発揮対策検証事業に関わる請負業務の目的にのみ利用させていただきます。

## 森林・山村多面的機能発揮対策に係る 地域協議会の運営状況についてのアンケート

地域協議会名、アンケート記入者名、連絡先のご記入をお願いいたします。

地域協議会名
アンケート記入者名
連絡先

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業において、活動組織への支援・指導を行う地域協議会の皆様を対象に、各種の支援活動等の状況や運営上の課題などをお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の皆様のご参考にしていただくことを目的としています。  
ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。
- アンケート調査は林野庁から委託を受け、(公財)日本生態系協会が実施しています。
- 本アンケートは、貴協議会における活動組織の支援・指導に関する取り組みの全体像を把握されているご担当者様などにご記入をお願いいたします。
- 選択式の質問では、あてはまる選択肢のチェック欄  にチェック  をお願いします。
- お忙しいところ恐縮ですが、ご記入後、平成 29 年 10 月 20 日(金)までに同封の返信用封筒または E メールにて、本アンケート調査票をご返送いただきますようお願いいたします。
- E メールでのご回答を希望される場合は、下記の調査票ダウンロードサイトにて調査票の電子データを入手していただくか、下記のお問い合わせ先へご連絡をお願いします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。
- アンケート調査票は、本紙を含め 28 ページ(全 27 問)です。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及び回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会 (担当: 野口、平林)

住 所: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話: 03-5951-0244

E メール: shinrin2017@ecosys.or.jp

調査票ダウンロードサイト: <http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin.html>

## Q1 | 募集・申請

平成 28 年度および平成 29 年度において、貴協議会が実施した本交付金の募集回数を教えてください。平成 29 年度については、予定も含めるようにしてください。

なお、締め切りを決めていない場合は、「随時募集」にご回答ください。

横 1 行ごとに当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

	1 回	2 回	3 回	4 回以上	随時募集
平成 28 年度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
平成 29 年度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## Q2 | 募集・申請

貴協議会が本交付金の募集を行うに当たり、新規の申請団体を募集するためにどのような取り組みを行っているかについて教えてください。

横 1 行ごとに当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

	平成 28 年度	平成 29 年度
① Web サイト (Facebook など SNS を含む) での情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② チラシなどの独自の広報用資料の作成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 都道府県の担当部局に広報を依頼	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 市町村の担当部局に広報を依頼	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 新規申請団体向けの説明会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ ボランティア団体向け施設での広報活動 (チラシ設置など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ その他 (自由記述欄にご回答ください)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 特に新規団体募集のための広報活動は行っていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「⑦その他」にご回答の協議会は、具体的な新規団体募集のための取り組みを教えてください



貴協議会が本交付金の募集を行うに当たり、申請する団体が応募しやすくするために平成29年度に行っている工夫や取り組みについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 本交付金に関する説明会の開催
- ② 申請書類作成にあたっての独自のQ&Aの作成・公開・配布
- ③ 申請書類記入例の作成・公開・配布
- ④ 申請書類作成を指導・支援する別団体の紹介・斡旋
- ⑤ 過年度と比べての変更点をまとめた資料の作成
- ⑥ 独自の募集用チラシ・パンフレットの作成・公開・配布
- ⑦ Web サイトでの最新の申請書類の公開
- ⑧ モニタリング調査に関する説明会・講習会の開催
- ⑨ モニタリング調査のための手引き等の資料の作成
- ⑩ 安全講習の講師・指導者の紹介、斡旋
- ⑪ 森林ボランティア活動のための保険の斡旋・宣伝
- ⑫ 対象地の面積の算定支援
- ⑬ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑭ 特に申請をいやすくするための取り組みは行っていない

「⑬その他」にご回答の協議会は、具体的な取り組みや工夫について教えてください

平成28年度および平成29年度において、貴協議会が活動組織の申請に対して、具体的に修正のための指導・支援を行ったことの内容について教えてください

横1行ごとに当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

	平成28年度	平成29年度
<input type="checkbox"/> ① 申請書類の記載漏れ、記載ミスがあった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ② 交付金対象外の活動が申請されていた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ③ 適切な森林計画図が準備されていなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ④ 0.1ha以上という面積の要件が満たされていなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑤ 面積の算定が適切ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑥ 活動対象地に関する協定書が適切な内容ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑦ 森林経営計画または森林施設計画の対象地が含まれていた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑧ 交付金の使途に適切ではない内容があった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑨ 対象森林の現況を把握するための写真が適切ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑩ 活動スケジュールが適切ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑪ 教育・研修活動タイプの講師が適切ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑫ 安全のために着用する装備が十分ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑬ 保険に未加入しいしは、補償内容が不十分だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑭ 安全講習の内容が適切ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑮ モニタリング調査の内容が適切ではなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑯ その他（自由記述欄にご回答ください）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ⑰ 特に修正指導は行っていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「⑯その他」にご回答の協議会は、具体的な指導の対象となった内容を教えてください

## Q5 | 市町村による有効性・妥当性の確認

平成29年度から、活動組織が交付金を取得するためには、活動組織の地元市町村が有効性および妥当性を確認することが必須の条件となりました。

この地元市町村による有効性・妥当性の確認の手続きにおいて、市町村から活動の承認が得られなかった、あるいは条件を付けられた活動組織があったかどうかを教えてください。

また、承認を得られなかった理由あるいは、条件付きの承認の場合にはその承認の条件について教えてください。(両方の事例がある場合は、それぞれの理由について教えてください。)

### 当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① すべての活動について、市町村より条件なしで有効性・妥当性が承認された
- ② 市町村による有効性・妥当性の承認にあたり、条件を付けられた活動があった  
(自由記述欄にご回答ください)
- ③ 市町村より有効性・妥当性が承認されない活動があった  
(自由記述欄にご回答ください)

「②市町村による有効性・妥当性の承認にあたり、条件を付けられた活動があった」にご回答の協議会は、どのような条件であったのかを、ご存じの範囲で教えてください

「③市町村より有効性・妥当性が承認されない活動があった」にご回答の協議会は、承認がされなかった理由について、ご存じの範囲で具体的に教えてください

## Q6 | 市町村による有効性・妥当性の確認

地元市町村による有効性・妥当性の確認の手続きにおいて、貴協議会で苦勞したことがありますたら教えてください。

### 当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 対象の市町村が対象となる活動組織のことを知らなかった
- ② 対象の市町村と対象となる活動組織の関係が良好ではなかった
- ③ 対象の市町村の本交付金についての理解が十分ではなかった
- ④ 本交付金に関する市町村の担当部局あるいは担当職員がわからなかった
- ⑤ 対象の市町村側が「活動の有効性」を判断することができなかった
- ⑥ 市町村側が承認に当たり、対象の活動組織の活動内容と異なる条件を提示してきた
- ⑦ 意見照会を行っても、回答を得られない市町村があった
- ⑧ その他 (自由記述欄にご回答ください)
- ⑨ 特に市町村への確認依頼で苦勞したことはない

「⑧その他」にご回答の協議会は、具体的に苦勞したことについて教えてください

Q7 | 都道府県による支援

平成29年度から、地方自治体が国の交付金に加えて上乗せする形での資金の支援（以下、上乗せ支援）を行う活動を優先的に交付金の採択の対象とするように改正が行われました。  
貴協議会の所轄管内の都道府県について、このアンケートへの回答時点で、平成29年度に活動組織への上乗せ支援を行う予定であるかどうかを教えてください。

※複数の都県を所轄している一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構様は、それぞれの都県の上乗せ支援の状況について、本ページの下段の回答欄に、対応する選択肢の番号を直接記入していただきますようお願いいたします。

当てはまるすべての選択肢に1つだけチェックを入れてください。

- ① 都道府県による上乗せ支援がすべての活動組織に対して行われる予定である  
(⇒ 10ページのQ10に移動してください)
- ② 都道府県による上乗せ支援が行われる予定の活動組織とそうでない活動組織がある  
(⇒ 次ページのQ8にご回答ください)
- ③ 都道府県による上乗せ支援が行われるかどうかは現在検討中である  
(⇒ 10ページのQ10に移動してください)
- ④ 都道府県による上乗せ支援は行われず予定はない  
(⇒ 9ページのQ9にご回答ください)

一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構様 回答欄

都道府県	番号記入欄	都道府県	番号記入欄	都道府県	番号記入欄
埼玉県		東京都		神奈川県	

※都県ごとに該当の選択肢の番号を直接記入してください

Q8 | 都道府県による支援

Q7において、「② 都道府県による上乗せ支援が行われる予定の活動組織とそうでない活動組織がある」と回答した協議会にお伺いいたします。

ご存じの範囲内で、上乗せ支援が行われる活動組織とそうでない活動組織の違いが生じた理由について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 対象となる都道府県の支援が、任意の募集によって決められていた
- ② 対象となる都道府県の支援が、過年度の実績により決められていた
- ③ 対象となる都道府県の支援が、市町村で支援が行われている団体に限定されていた
- ④ 対象となる都道府県で決められた予算では活動組織すべてをカバーできなかった
- ⑤ 活動組織の数が多く、追加の予算措置を行うための時間がなかった
- ⑥ 都道府県が上乗せ支援を実施するに当たり、森林作業についての条件を提示したが、その条件を満たすことのできない活動組織があった
- ⑦ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑧ 上乗せ支援が行われず理由がわからない

「⑦その他」にご回答の協議会は、ご存じの範囲内で具体的な理由について教えてください



## Q9 | 都道府県による支援

Q7において、「④ 都道府県による上乗せ支援は行われる予定はない」と回答した協議会にお伺いいたします。

ご存じの範囲内で、都道府県からの上乗せ支援が行われない理由について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 対象となる都道府県において議会の承認が得られない（遅れている）
- ② 対象となる都道府県の担当部署内で検討中である
- ③ 本事業または本事業の内容及びあまり認知されていない
- ④ 対象となる都道府県で、本交付金と別の森林ボランティア支援制度がある
- ⑤ 国からの支援分だけで十分な支援であると判断されている
- ⑥ 本交付金のルール改正後、予算化を行うための時間がなかった
- ⑦ 都道府県が上乗せ支援を実施するに当たり、森林作業についての条件を提示したが、その条件を満たすことのできる活動組織がなかった
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 上乗せ支援が行われない理由がわからない

「⑧その他」にご回答の協議会は、ご存じの範囲内で具体的な理由について教えてください

## Q10 | 市町村による支援

貴協議会の所轄管内で、このアンケートへの回答時点で、平成29年度に上乗せ支援を行う予定の市町村名をご存じの範囲で教えてください。

添付の別紙にて、上乗せ支援を行う予定の市町村名にチェックをしていただきますようお願いいたします。

別紙にて、上乗せ支援を行っている市町村にチェックをお願いします。

※封入漏れ等で別紙の市町村リストがお手元にならない場合は、日本生態系協会までご連絡ください。改めてメールにてお送りさせていただきます。（メールアドレス：[shimrin2017@ecosys.or.jp](mailto:shimrin2017@ecosys.or.jp)）

## Q11 | 市町村による支援

貴協議会の所轄管内で、このアンケートへの回答時点で、申請団体の有効性・妥当性を確認する対象となった市町村のうち、上乗せ支援を実施して“いない”市町村について、ご存じの範囲内で、上乗せ支援が行われない理由について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 対象となる市町村において議会の承認が得られない（遅れている）
- ② 対象となる市町村の担当部署内で検討中である
- ③ 本事業または本事業の内容及びあまり認知されていない
- ④ 対象となる市町村で、本交付金と別の森林ボランティア支援制度がある
- ⑤ 国からの支援分だけで十分な支援であると判断されている
- ⑥ 本交付金のルール改正後、予算化を行うための時間がなかった
- ⑦ 対象となる市町村では、申請団体の活動の有効性・妥当性が承認されなかった
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 上乗せ支援が行われない理由がわからない

「⑧その他」にご回答の協議会は、ご存じの範囲内で具体的な理由について教えてください

Q12 | 活動組織への支援

貴協議会が実施している、あるいは斡旋を行っている、本交付金に関連した取り組みについての理解の向上を目指した説明会・講習会の内容を教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 申請書類の作成
- ② 交付金対象として採択された後の書類作成（実績報告書等）
- ③ 動力付き機械（チェンソー、刈払機など）の利用方法、利用技能
- ④ 森林内での活動についての安全対策（動力付き機械の利用以外。熱中症防止など）
- ⑤ 森林整備の手法（かかり木の処理、大径木の伐採方法など）
- ⑥ 活動事例発表、実際に活動を行っている団体の現地視察会
- ⑦ モニタリング調査の方法
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 特に説明会・講習会は実施していない

「⑨その他」にご回答の協議会は、具体的などのようなことについて理解の向上を目指した説明会・講習会を開催したのかを教えてください

Q13 | 活動組織への支援

本交付金の活動を円滑に進めるために、貴協議会が平成 28 年度ないしは平成 29 年度に独自に作成した活動組織向けの資料がありましたら、その資料内容と公開状況について教えてください。

横 1 行ごとに当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

資料内容	作成・公開状況		
	A 関連資料を独自に作成した	B Web（ホームページ等）で公開している	C 印刷物として配布を行っている
① 本交付金全般についての独自の手引き ※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 本交付金の申請のための独自の募集要項	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 本交付金で必要な書類の記載例	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 安全対策に関する資料	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ モニタリング調査に関する資料 ※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 活動組織の活動事例集	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 該当の地域協議会独自の Q&A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 特に独自に作成している活動組織向けの資料はない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 「①独自の手引き」もしくは「⑤モニタリング調査に関する資料」を独自に作成しており、webでの公開を行って“いない”場合は、お手数かとは存じますが、アンケートに同封ないしは添付して、日本生態系協会までお送りいただきますようお願い申し上げます。

「⑨その他」にご回答の協議会は、具体的などのような資料であるかを教えてください

貴協議会が所轄管内での活動組織の安全対策を推進するために、活動組織に対して行っている取り組みを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 安全講習会の実施（地域協議会が主催あるいは共催するもの）
- ② 他団体（自治体等）が主催する安全講習会への参加呼びかけや案内の送付
- ③ 安全装備購入などの安全対策に交付金を利用するように指導
- ④ 保険加入の斡旋
- ⑤ 安全対策の不備が見つかった活動日は交付金の対象としない、あるいは減額する ※
- ⑥ 安全マニュアルの配布・紹介（※独自に作成したものでなくても構いません）
- ⑦ 記録写真による活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑧ 現地確認の際の活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑨ 事故情報に関する周知などの安全に関する注意喚起
- ⑩ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑪ 特に安全対策を推進するための取り組みを実施していない

※「⑤安全対策の不備が見つかった活動日は交付金の対象としない、あるいは減額する」については、写真記録などでヘルメット等の安全装備の着用がなかった場合に、該当の活動日分を交付金の対象日しないなどの指導を行っている場合を指します。実際に処分を行った経験があるかどうかは問いません。

「⑩その他」にご回答の協議会は、具体的な取り組み内容を教えてください

平成29年度より、活動組織が活動対象地において、毎年1回以上安全講習や森林施業技術向上のための講習を行うことが義務付けられるようになりました。

貴協議会が、活動組織が安全講習や森林施業技術向上のための講習を円滑に実施できるようにするために、どのような支援を行っているのかについて教えてください。（実施予定の支援も含めてご回答ください。）

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 必要な講師の紹介あるいは斡旋
- ② 講習に役立つマニュアル等の資料の配布あるいは紹介
- ③ 活動組織内の講師候補向けの安全講習の実施
- ④ 活動組織内の講師候補向けに、他団体の安全講習の紹介、参加呼びかけ
- ⑤ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑥ 活動組織に義務づけられた講習に関連して、特に支援を行っていない（予定がない）

「⑤その他」にご回答の協議会は、具体的な取り組み内容を教えてください



Q16 | 安全対策

貴協議会から見て、安全講習や森林施業技術向上のための講習を活動組織が進めていくうえで、課題と感ずることがございましたら教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 講師の予定者が講師として適任であるかどうか判断がつかない場合がある
- ② 講師に適任な方の数が少ない
- ③ 講師に適任な方と活動組織の予定を合わせることができない
- ④ 講師に適任な方の所在地が、活動組織の所在地と離れている
- ⑤ 活動組織に具体的に何を学んでもらえばよいのかわからない
- ⑥ 活動組織が提案した講習内容が、適切な内容ではなかった
- ⑦ 活動組織で独自に行う講習が、本当に適切な内容であるかわからない
- ⑧ どのような条件を満たせば、講習の義務を果たしたと考えるのかわからない
- ⑨ 活動組織の活動対象地が講習に適した場所ではない場合がある
- ⑩ その他 (自由記述欄にご回答ください)
- ⑪ 特に課題と感ずるようなことはない

「⑩その他」にご回答の協議会は、具体的に課題と感ずることを教えてください

Q17 | モニタリング

平成29年度より、活動組織が、交付金の効果を確認するためのモニタリング調査を実施することが義務付けられました。

貴協議会が、活動組織によるモニタリング調査を進めるために、どのような支援を行っているかを教えてください。(実施予定の支援も含めてご回答ください。)

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① モニタリング調査の際に、地域協議会の担当者も参加し、適宜助言を行う
- ② モニタリング調査を実施する上で参考となる資料を独自に作成した
- ③ モニタリング調査を実施する上で参考となる資料の紹介を行っている (独自作成除く)
- ④ モニタリング調査についての助言や支援が可能な個人 (専門家) の紹介を行う
- ⑤ 本交付金を取得している活動組織から、モニタリング調査について助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑥ 本交付金を取得していない団体から、モニタリング調査について助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑦ モニタリング調査の実施方法に関する講習会・学習会を実施する
- ⑧ その他 (自由記述欄にご回答ください)
- ⑨ モニタリング調査に関連して、特に支援を行っていない

「⑧その他」にご回答の協議会は、具体的な取り組み内容を教えてください

## Q18 | モニタリング

貴協議会が、モニタリングのガイドライン（「交付金の効果の調査・確認方策について」）に掲載されている“以外の”モニタリング手法で、活動組織の提案がなされる前の段階で、独自に設定・指導している調査手法がありましたら、教えてください。

なお、もし、活動組織からの提案前に独自に設定した調査手法がない場合には、「独自に設定・指導している調査手法はない」のチェック欄にチェックをお願いします。

※モニタリングのガイドラインの、独自の調査の提案例として記載している見直し調査についても、本交付金におけるモニタリング手法として承認している場合は、ここでご回答いただきますようお願いいたします。

※「独自に設定・指導している調査手法」については、明文化されていないものも含まれます。具体的には、モニタリングに関する講習会等で紹介した調査方法も含めてご回答ください。

自由記述にてご回答いただくか、関連資料を添付にてお送り下さい。

地域協議会で独自に設定・指導している調査手法はない

活動組織からの提案前に独自に設定・指導している調査方法がありましたら、具体的な内容についてご回答いただくか、該当の調査方法について配布している資料を添付にてお送りいただきますようお願いいたします。

※自由記述

## Q19 | モニタリング

貴協議会が、活動組織によるモニタリング調査の内容を確認する際に、課題と感ずることがございましたら教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

調査方法	対象地	初回調査	調査実施段階	数値目標	その他
<input type="checkbox"/> ① モニタリング調査の方法が妥当であるかどうか判断ができない	<input type="checkbox"/> ⑤ 混み合っていない森林など、モニタリングのガイドラインで想定されていない状態の場所を調査場所とする団体がいる	<input type="checkbox"/> ⑥ 初回調査の調査結果が適切であるかどうか判断ができない	<input type="checkbox"/> ⑧ 活動組織に調査方法を理解してもらったことが難しい	<input type="checkbox"/> ⑬ 活動組織の決めた数値目標が妥当であるかどうか判断ができない	<input type="checkbox"/> ⑮ 実現可能な数値目標が目安よりも低い活動組織について、どこまで低い目標を認めてよいかわからない
<input type="checkbox"/> ② 提案された独自調査が適切であるかどうか判断ができない	<input type="checkbox"/> ④ モニタリング調査の調査場所が適切であるかどうか判断ができない	<input type="checkbox"/> ⑦ 初回調査に不備があった際の対応方法が分からない	<input type="checkbox"/> ⑨ 活動組織がモニタリング調査に必要な道具を準備することができない	<input type="checkbox"/> ⑭ モニタリングのガイドラインに記載されている数値目標の目安が高すぎる	<input type="checkbox"/> ⑯ 数値目標を決める際の前提となる「活動組織が実現可能な作業量」を評価できない
<input type="checkbox"/> ③ 承認されていない独自調査のみを実施する団体がいる			<input type="checkbox"/> ⑩ なぜモニタリング調査が必要であるのかを説明ができない		<input type="checkbox"/> ⑰ 初回調査実施後に、数値目標の達成が難しいと判明した団体にどう指導すればよいかわからない
			<input type="checkbox"/> ⑪ 調査方法について助言や指導を行うことのできる地域協議会の担当者がいない		<input type="checkbox"/> ⑱ その他（次ページの自由記述欄にご回答ください）
			<input type="checkbox"/> ⑫ 調査方法について助言や指導が可能な個人・団体に協力を仰ぐことができない		<input type="checkbox"/> ⑲ 特に課題と感ずるようなことはない
			<input type="checkbox"/> ⑬ 活動組織の決めた数値目標が妥当であるかどうか判断ができない		
			<input type="checkbox"/> ⑭ モニタリングのガイドラインに記載されている数値目標の目安が高すぎる		
			<input type="checkbox"/> ⑮ 実現可能な数値目標が目安よりも低い活動組織について、どこまで低い目標を認めてよいかわからない		
			<input type="checkbox"/> ⑯ 数値目標を決める際の前提となる「活動組織が実現可能な作業量」を評価できない		
			<input type="checkbox"/> ⑰ 初回調査実施後に、数値目標の達成が難しいと判明した団体にどう指導すればよいかわからない		
			<input type="checkbox"/> ⑱ その他（次ページの自由記述欄にご回答ください）		
			<input type="checkbox"/> ⑲ 特に課題と感ずるようなことはない		

Q19の自由記述欄は次のページにあります。

このページは、Q19において「⑩その他」に回答した協議会のための自由記述欄です。

「⑩その他」にご回答の協議会は、具体的に課題と感ずることを教えてください

## Q20 | 数値目標の目安

モニタリングのガイドラインでは、それぞれの調査方法ごとに目標の目安となる数値を設定しています。

ガイドラインに掲載された数値目標の目安に関して、貴協議会の所轄管内の活動組織が達成できかどうかの難易度について、貴協議会の印象を教えてください。

※ガイドラインとは異なる独自の数値目標に対する目安を設定している協議会も、ガイドラインの目安に対する印象を回答いただきますようお願いいたします。

横1行ごとに当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

調査 (目標の目安)	印象					
	A 達成は非常に容易である	B 達成は容易である	C 容易でも困難でもない	D 達成は困難である	E 達成は非常に困難である	F 難易度はよくわからない
① 相対幹距比調査 (1~2ポイント以上改善)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 萌芽再生率調査 (20%以上が若返った状態にする)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 植生調査 (希少種等の個体数を増やす)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 竹の本数調査 (侵入竹除去) (竹の本数をゼロにする)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 竹の本数調査 (竹の本数管理) (1ha あたり 2,500 本~4,000 本程度)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 幹材積量調査 (確認資源量の50%程度を利用)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 木材以外の資源の資源量調査 (利用可能な資源を維持あるいは増やす)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



## Q21 | 数値目標

モニタリングのガイドラインでは、活動組織が数値目標を設定する際には、それぞれの地域の事情を考慮して、目安と異なる数値目標を設定することも認められています。

モニタリングのガイドラインで示された目安よりも低い数値目標を設定した活動組織について、具体的にどのような理由で低い数値目標を設定したのかを、ご存じの範囲で教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 活動への参加者が少なかった
- ② 活動参加者の経験が不足していた
- ③ 活動参加者の安全確保のために必要であった
- ④ 活動対象地が、活動を行うためには、条件が不利な場所だった（急傾斜地など）
- ⑤ 活動対象地ですでに（ある程度の）整備が行われていた
- ⑥ 風害や雪害への対策など、活動対象地が健全な状態を保つために必要であった
- ⑦ 活動組織が目指す森林の状態と数値目標の目安が一致していなかった
- ⑧ 3年間という期間が、数値目標を達成する上では短すぎた
- ⑨ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑩ 地域協議会の立場として、ガイドラインの目安よりも低い目標設定は認めていない
- ⑪ 数値目標を設定した活動組織の中に、目安よりも低い目標を決めた団体がいない
- ⑫ 所轄管内の活動組織の数値目標について、まだ（ほとんど）把握できていない

「⑨その他」にご回答の協議会は、具体的な理由を教えてください

## Q22 | 活動組織間の連携促進

貴協議会が、平成29年度に、活動組織間の協力関係を促進するために行った取り組み、あるいは行う予定の取り組みについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 活動組織間の交流会の実施
- ② メールिंगリストを活用した情報共有
- ③ Facebook やインターネットの掲示板サービスのような web サイトによる情報共有
- ④ 活動事例発表会の開催
- ⑤ 活動組織の活動現場を対象とした現地見学会の開催
- ⑥ 活動組織間の連絡網の作成
- ⑦ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑧ 特に活動組織の協力関係を促進するための取り組みは行っていない

「⑦その他」にご回答の協議会は、具体的な取り組み内容を教えてください

Q23 | 他の主体との連携

貴協議会が本交付金の取り組みを行うに当たり、どのような団体や専門家と、どのような内容での協力関係にあるのかを教えてください。

横1行ごとに当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

協力団体	協力内容						
	A、書類作成の指導	B、作業や活動についての助言	C、安全等の講習の実施	D、資機材の貸与	E、広報活動	F、モニタリング調査の支援	G、特に協力関係はない
① 都道府県	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 市区町村	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 別の地域協議会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林組合	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 本交付金を取得している活動組織※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※「⑤ 本交付金を取得している活動組織」については、協力関係にある該当の活動組織“以外”の活動組織のために手助けをお願いするケースを対象とします。

具体的には、「活動組織Aが書類作成で困っていたので、近隣の活動組織Bに活動組織Aの書類作成の支援をお願いした」ケースは、地域協議会と活動組織Bとの間に協力関係があったと考えられます。この他、地域協議会主催で安全講習を実施した際に、活動組織Cに講師を依頼したような場合も、地域協議会と活動組織Cが協力関係にあると考えます。

上記以外で特に特筆すべき協力関係がある場合は、協力団体と内容をご記入ください

Q24 | 活動の進展状況

貴協議会の所轄管内にある活動組織の活動の成果の全体的な傾向として、下記で示す項目に関する進捗状況について、貴協議会から見た印象を教えてください。

横1行ごとに当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

活動の成果	進捗状況					
	A、十分取り組みが進んでいる	B、ある程度取り組みが進んでいる	C、どちらともいえない	D、やや取り組みが進んでいない	E、取り組みが進んでいない	F、よくわからない
① 活動を行う上での安全性の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 森林管理を行う人材の育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 森林の整備による景観の改善	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林由来の資源の利用の増加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林・林業に関する理解の向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 地域の(集落)コミュニティの活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 関連する人や団体間の連携・協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 活動を継続するための財源の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q25 | 課題

平成 28 年度以降の取り組みの中で、他の協議会と共有すべき事例として、貴協議会が運営を行う上で特に苦勞したことについて、教えてください。また、その苦勞した問題について、どのように解決をしたのか、あるいは解決ができなかったとすればどのような理由によるものかを教えてください。

「苦勞したこと」を教えてください。（自由記述）

苦勞したことは（  解決した ・  対応中 ・  解決できなかった ）

※当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

「苦勞したこと」をどのように解決したのか、あるいは解決が困難である理由を教えてください。（自由記述）

上記の「苦勞したこと」を解決しないしは予防するために、貴協議会で実施している独自の取り組みがありましたら教えてください。（自由記述）

Q26 | 要望

本交付金に関連して、今年度以降に国に対して要望することがございましたら、教えてください。

自由記述にてご回答ください。回答は任意です。



Q27 | 活動事例集

貴協議会の所轄管内にある活動組織のうち、貴協議会から見て、他地域でも参考となる優良な取り組みを行っていると考えられる団体と、その理由について教えてください。

**【Q27に関する注意事項】**

※推薦理由に関する記入欄が不足する場合は、別紙にご記入ください。

※ご紹介いただいた団体の一部につきましては、別途、活動組織に対する現地でのヒアリングを実施させていただいた場合がございます。その際には、地域協議会の皆様に、対象となる活動組織への事前連絡や仲介をお願いいたします。ご協力をお願いします。

※現地ヒアリングをさせていただいた団体につきまして、本年度以降の活動事例集に掲載することを考えております。ただし、個人情報保護などの観点から、活動組織の代表者ないしは事務担当者の同意がない場合には、活動組織の取り組みの具体的な内容については、活動事例集や一般公開する報告書に掲載いたしません。

※Q27への回答につきましては、後日、インターネット等で公開する報告書においても結果を掲載することはありません。

(その1)

活動組織名	※対象となる活動組織が平成29年度に交付金を取得（予定）の活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも）
活動タイプ	<input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」 <input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ <input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ <input type="checkbox"/> ⑤ 教育・研修活動タイプ（森林空間利用タイプ）
推薦理由	※該当の活動組織の活動が、活動事例集への掲載にふさわしいと考える理由をご記入ください。（自由記述）

(その2)

活動組織名	※対象となる活動組織が平成29年度に交付金を取得（予定）の活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも）
活動タイプ	<input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」 <input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ <input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ <input type="checkbox"/> ⑤ 教育・研修活動タイプ（森林空間利用タイプ）
推薦理由	※該当の活動組織の活動が、活動事例集への掲載にふさわしいと考える理由をご記入ください。（自由記述）

(その3)

活動組織名	※対象となる活動組織が平成29年度に交付金を取得（予定）の活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも）
活動タイプ	<input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」 <input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ <input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ <input type="checkbox"/> ⑤ 教育・研修活動タイプ（森林空間利用タイプ）
推薦理由	※該当の活動組織の活動が、活動事例集への掲載にふさわしいと考える理由をご記入ください。（自由記述）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました

## 森林・山村多面的機能発揮対策に係る活動状況についてのアンケート

団体名、団体所在地、アンケート記入者名、連絡先をご記入ください。

団体名	
団体所在地 (市区町村まで)	都・道・府・県 市・区・町・村
アンケート記入者名	
連絡先	(電話番号) : (Eメールアドレス) :

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業を活用して森林づくりや地域活性化に取り組み団体（活動組織）の皆様を対象に、各種の活動状況や活動計画の内容をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組み関係者の皆様のご参考にしていただくことを目的としています。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。
- 本アンケートは、貴団体の森林づくり・地域活性化の取り組みの全体像を把握されている団体の代表者様、ご担当者様などにご記入をお願いいたします。
- 選択式の質問では、あてはまる選択肢のチェック欄  にチェック  をお願いします。
- お忙しいところ恐縮ですが、ご記入後、平成29年10月23日（月）までに同封の返信用封筒かEメールにて、本アンケート用紙をご返送いただくようお願いいたします。
- Eメールでのご回答を希望される場合は、下記調査票ダウンロードサイトにて調査票をダウンロードしていただくか、下記の（公財）日本生態系協会へご連絡をお願いします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。
- アンケート調査票は、本紙を含め32ページです。設問数は、平成28年度までで交付金を終了した団体の皆様は全14問、平成29年度に交付金を取得している団体の皆様は全29問です。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ先> お問い合わせの送付先

公益財団法人 日本生態系協会（担当：野口、平林）

住所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電話：03-5951-0244

Eメール：shinrin2017@ecosys.or.jp

調査票ダウンロードサイト：<http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin.html>

## Q1 | 活動組織の形態

貴団体の形態について教えてください。

当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

- ① 任意団体（自治会やサークル、親睦会などの法人格のない団体）
- ② 財団法人・社団法人  ③ NPO 法人  ④ 森林組合
- ⑤ 企業  ⑥ 学校・幼稚園・保育園  ⑦ その他

## Q2 | 交付金のタイプ

貴団体が平成28年度および平成29年度に取得している本交付金の内容、活動タイプを教えてください。

横1行ごとに当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

	A 平成28年度	B 平成29年度
① 活動推進費（初年度のみ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 地域環境保全タイプ 里山林保全活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地域環境保全タイプ 侵入竹除去、竹林整備活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林資源利用タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林機能強化タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 教育・研修活動タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 資機材への支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 本交付金を取得していない（しない予定である）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**Q3 | 交付金の対象森林の面積**

貴団体が平成28年度と平成29年度に本交付金の対象としている森林の面積を教えてください。

- ※活動をを行っている年度および活動タイプは空欄のままにしてください。
- ※必ずヘクタール (ha; 1ha=10,000 平方メートル) 単位で記入してください。

**該当する活動タイプと年度ごとに数字 (小数点以下一桁まで) を記入してください。**

	A 平成28年度	B 平成29年度
① 地域環境保全タイプ 里山林保全	ha	ha
② 地域環境保全タイプ 侵入竹除去・竹林整備	ha	ha
③ 森林資源利用タイプ	ha	ha

**Q4 | 活動日1日当たりの参加人数**

平成28年度と平成29年度の貴団体が交付金を用いた活動について、“活動日1日当たり”で実際に活動に参加されている方のおよその平均参加人数について年齢層別に教えてください。

- ※教育・研修活動タイプは、一般参加者は含まず、運営従事者のみの人数を回答してください。
- ※回答はおおよその数字で構いません。(参加者に年齢等を改めて尋ねる必要はありません。)

**横1行ごとに当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。**

年齢	人数				
	参加なし	1~5人	6~10人	11~20人	21人以上
① 未成年(20歳未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 20~39歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 40~59歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 60~69歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 70歳以上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**Q5 | 女性の参加比率**

平成28年度と平成29年度に本交付金を得て活動を行う貴団体の活動について、女性の参加比率を、取得した活動タイプ別に教えてください。

- ※参加比率はおおよその数字でかまいません。
- ※回答は平成28年度・平成29年度に交付金の対象となった活動タイプだけでかまいません。

**該当する活動タイプごとに当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。**

参加比率	活動タイプ					
	A 女性の参加は全参加者の四分之三以上 (75%以上)	B 女性の参加は全参加者の半数以上 (50%以上 75%未満)	C 女性の参加は全参加者の半数より少ない (25%以上 50%未満)	D 女性の参加は全参加者の四分の一未満 (1%以上 25%未満)	E 女性の参加はほとんどない (0%あるいは1%未満程度)	F 女性の参加状況はよくわからない
① 地域環境保全タイプ 里山林保全	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 地域環境保全タイプ 侵入竹除去・竹林整備	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 森林資源利用タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 教育・研修活動タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



Q6 | 活動資金の抽出方法

貴団体の、森林における活動を行うための本交付金以外の資金抽出方法について、平成28年度の資金抽出方法と、平成29年度の資金抽出方法（見込含む）を教えてください。  
交付金を取得していない年度についてもご回答をお願いします。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

資金抽出方法	年度	
	A 平成28年度	B 平成29年度
① 個人からの会費・寄付金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 企業からの会費・寄付金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ インターネット募金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 公益法人からの助成金（緑の募金、緑と水の森林ファンドなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 国からの交付金・助成金（※本交付金は除く）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 都道府県からの交付金・助成金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 市区町村からの交付金・助成金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 企業からの助成金・支援金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 自治会・町内会からの支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 森林から得られる生産物（薪、炭、山菜など）の販売収益	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ イベント・講習会の参加費	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 他の収益事業部門からの収益	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 特に資金源はない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「⑬その他」にご回答の場合には、具体的な資金抽出方法を教えてください

Q7 | 申請時に苦勞したこと

本交付金の申請を行う際に苦勞したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 活動計画書など必要な書類を作成することが難しかった
- ② 活動対象地の面積を算定することが難しかった
- ③ 活動計画図を用意することが難しかった
- ④ 土地の境界が不明でどこまで活動対象地にできるのかわからなかった
- ⑤ 活動組織の規約を作ることが難しかった
- ⑥ 名簿（参加同意書）に記載する参加者を集めることが難しかった
- ⑦ 活動対象地を確保することが難しかった（土地利用協定書の締結が困難 等）
- ⑧ 活動の候補地が、交付金の要件を満たしているかどうかの確認が難しかった
- ⑨ どのような保険に加入すればよいかわからなかった
- ⑩ どのようなモニタリング調査を選べばよいかわからなかった
- ⑪ 希望する森林づくりの目的に適したモニタリング調査方法がガイドラインになかった
- ⑫ 地元の市町村から有効性、妥当性の同意を得ることが難しかった
- ⑬ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑭ 特に苦勞したことはない

「⑬その他」にご回答の場合には、具体的に苦勞したことを教えてください

## Q8 | 活動を行う上で苦勞したこと

本交付金による活動を行う際に苦勞したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 活動記録の作成が難しい
- ② 作業時における写真撮影（集合写真、作業前、作業中、作業後）が難しい
- ③ 作業写真整理帳の作成が難しい
- ④ 金銭出納簿の作成（領収書の整理含む）が難しい
- ⑤ 作業員・参加者の人数の確保ができない
- ⑥ 必要な技術を持つ作業員・参加者の確保ができない
- ⑦ 交付金をどのような用途で利用できるのかが分からなかった
- ⑧ 活動資金が不足している
- ⑨ 資機材・安全装備を用意できない
- ⑩ 作業中・活動中に病人・けが人が発生した
- ⑪ 周辺の物品（家屋や電柱・電線等）の破損事故が生じた
- ⑫ 急傾斜地など、活動対象地の地形的な理由で作業が難しい
- ⑬ 対象地においてシカやイノシシ等による鳥獣被害が生じた
- ⑭ 大雨、地震、台風等により、活動対象地で倒木や斜面崩壊等の被害が生じた
- ⑮ 活動組織内の人間関係でうまくいかないことがあった
- ⑯ 活動組織内で、目指す森林の目標像が一致しなかった
- ⑰ モニタリング調査が難しい
- ⑱ 数値目標の設定方法がわからない
- ⑲ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑳ 特に苦勞したことはない

「⑲その他」にご回答の場合には、具体的に苦勞したことを教えてください

## Q9 | 活動の目的

貴団体が本交付金を取得した活動を行う際に、目的とすることを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 景観を良くしたい
- ② 地球温暖化防止に貢献したい（大気中のCO<sub>2</sub>を減らしたい）
- ③ 地域の生物多様性を守りたい
- ④ 森林から得られる森林資源を活用したい
- ⑤ 対象となる森林での鳥獣被害を軽減したい
- ⑥ 対象となる森林周辺の農地等における鳥獣被害を軽減したい
- ⑦ 森林の近くの道路を安心して通れるようにしたい
- ⑧ 森林の有する水源涵養機能を守りたい
- ⑨ 森林で土砂災害等の災害が発生しないようにしたい
- ⑩ 道路、住宅、農地等への樹木や竹の倒伏・侵入の被害を防ぎたい
- ⑪ 活動に関係する人々間の交流を深めたい
- ⑫ 森林を利用した教育活動や自然体験活動を行いたい
- ⑬ 森林に関連する雇用を生み出したい
- ⑭ 森林に関わる取り組みと農業との連携を進めていきたい（肥料づくりなど）
- ⑮ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑯ 特に目標とすることはない

「⑮その他」にご回答の場合には、具体的な目標について教えてください

**Q10 | 活動の成果**

貴団体がこれまでに本交付金を取得して行った活動において、下記で示す項目に関する改善状況を教えてください。

横1行ごとに当てはまる選択肢一つにチェックを入れてください。

	A 改善された	B 改善されたかどうかについては、どちらともいえない	C 改善できていない	D わからない
改善状況				
活動の成果				
① 活動参加者の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動実施時の安全対策	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 活動組織と地域の住民との交流	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 活動参加者の森林・竹林についての理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林・竹林の整備による景観の改善	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 森林・竹林由来の資源利用の増加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 活動対象地/周辺の地域活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 森林関連活動を行う団体間の連携・協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 活動を継続するための本交付金以外の財源の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

本ページのQ11以降は、交付金の取得状況に応じて、ご回答いただく質問が異なります。平成29年度に本交付金を利用しない皆様（平成28年度までで本交付金の利用を終了）

↑ 10ページから12ページのQ11AからQ14Aの質問にご回答ください

平成29年度に本交付金を利用している（予定含む）皆様

↑ 13ページのQ11B以降の質問にご回答ください

**Q11A | 継続しなかった理由**

平成29年度に本交付金を利用しない団体にお伺いします。貴団体が平成29年度に交付金の継続利用をしないことになった理由を教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 3年間の計画期間が終了した
- ② 森林での取り組みについて目標を達成した
- ③ 交付金に頼らずとも森林での活動ができるようになった
- ④ 交付金の金額が低い
- ⑤ 申請や報告等の事務的な負担が大きい
- ⑥ 保険や講習などの安全対策の負担が大きい
- ⑦ モニタリング調査がよくなるから、または負担が大きい
- ⑧ 地元市町村による承諾が得られなかった
- ⑨ 教育・研修活動タイプを主たる活動としていた
- ⑩ 必要な作業人数を確保することが難しい
- ⑪ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑫ 特に理由はない

「⑩その他」にご回答の場合には、具体的な理由について教えてください



Q12A | 交付金終了後の活動

平成29年度に本交付金を利用しない団体にお伺いします。

貴団体が本交付金の利用を終了した後、平成28年度までの活動と比べ、森林での活動の規模がどのように変化したのかを教えてください。

当てはまる選択肢を一つだけ選んでください。

- ① 本交付金取得時よりも規模を拡大して実施している
- ② 本交付金取得時とほぼ同規模の活動を実施している
- ③ 本交付金取得時よりも規模を縮小したが活動を継続している
- ④ 活動を一時的に休止している（今後どのような活動を行うかを検討中である）
- ⑤ 今後、森林での活動を行う予定はない

Q13A | 無償ボランティアの比率

平成29年度に本交付金を利用しない団体にお伺いします。

貴団体で、平成28年度と平成29年度において、森林作業を行う参加者のうち、無償ボランティア（人件費のない作業従事者）で参加している方のおおむねの比率を教えてください。

※比率は作業日単位で考えてください。同一人物が5日間作業を行い、有償で作業を行う日が1日、無償で作業を行う日が4日ある場合は、無償ボランティアの比率が80%と考えます。

横1行ごとに当てはまる選択肢を一つだけ選んでください。

比率	全員が無償作業	75%以上 100%未満	50%以上 75%未満	25%以上 50%未満	0%でないが 25%未満	0% 全員が有償作業
平成28年度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
平成29年度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q14A | ご意見・課題

平成29年度に本交付金を利用しない団体にお伺いします。

今後、本交付金を利用しやすくするために、貴団体が実際に感じた課題や改善すべき点等、お気づきの点がございましたら、教えてください。

自由記述にてご回答ください。回答は任意です。

平成28年度で交付金を終えた皆様へのアンケートは以上です。ご協力ありがとうございました

## ※本ページからの Q11B から Q29B までの質問は、

平成 29 年度に本交付金を利用している団体にご回答をお願いします。

### Q11B | 安全対策の状況

貴団体が、本交付金を用いた活動を行う上で、実践している安全対策について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 動力付き機械を使う場合の安全装備装着の徹底
- ② 活動参加時のヘルメット着用義務化（教育・研修活動タイプ参加者も含む）
- ③ 活動実施の際の保険への加入
- ④ 実際に活動を行う際の安全対策面での意識共有（声掛け、活動開始前の確認など）
- ⑤ 外部の安全講習会への参加
- ⑥ 活動対象地近隣の医療機関への連絡体制の準備
- ⑦ 救急用品、水（飲用、傷洗い用）の準備
- ⑧ 動力付き機械の作業前後の点検・メンテナンスの実施
- ⑨ ホイッスルを利用した参加者間の合図伝達や注意喚起の実施
- ⑩ 森林内の野生動物（クマ、イノシシ、ハチ、ヘビ等）に遭遇した場合の対応策の共有
- ⑪ 森林内の有毒植物（ツタウルシなど）や棘のある植物についての参加者への注意喚起
- ⑫ 悪天候時に作業中止を判断するための基準づくり（雨天中止など）
- ⑬ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑭ 特に安全対策は行っていない

「⑬その他」にご回答の場合には、具体的な対策について教えてください

### Q12B | 安全講習の講師の選定

平成 29 年度より、本交付金を取得するに当たり、活動対象地における安全講習が義務付けられることになりました。

安全講習の講師をどのようにして選んだのかを教えてください。

まだ安全講習を行っていない団体につきましては、具体的にどのように選ぶ予定であるのかを教えてください。

※なお、複数の講師がいる場合には、講師全員分について、どのように選んだのか（あるいは選ぶ予定であるのか）を教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 自分たちの活動組織内の構成員から選んだ
- ② 知り合いの森林づくり活動を行う団体（森林組合以外）に依頼した
- ③ 知り合いの森林づくりに詳しい個人に依頼した
- ④ 近隣の森林組合に依頼した
- ⑤ 地域協議会（申請書の提出先団体）より斡旋・推薦を受けた
- ⑥ 都道府県より斡旋・推薦を受けた
- ⑦ 市町村より斡旋・推薦を受けた
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑨ 講師はこれから探す
- ⑩ 誰に講師の依頼をすればよいかわからない

「⑩その他」にご回答の場合には、具体的などのように選んだのかを教えてください

## Q13B | 安全講習の講師の資格等

貴団体が活動対象地における安全講習を行うに当たり、講師とした方の持っている資格あるいは経歴を教えてください。(まだ講習を実施していない場合は、講師の予定者の資格・経歴を教えてください)

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 森林インストラクター
- ② 技術士、技術士補
- ③ 林業普及指導員
- ④ 林業技士
- ⑤ 労働安全衛生法による特別教育の修了者(チェンソー、刈払機など)
- ⑥ 大学、専門学校、高校等における林業関連科目担当教員
- ⑦ 森林組合
- ⑧ 林業経験者
- ⑨ 都道府県等の地方自治体による地域独自の林業関連認定制度の認定者※
- ⑩ 外部の安全講習の受講者
- ⑪ その他(自由記述欄にご回答をお願いします)
- ⑫ 特に林業、森林作業に関連する資格や経歴はない
- ⑬ まだ、安全講習の講師が決まっていない

「⑪その他」にご回答の場合には、具体的な資格や経歴について教えてください

※「⑨ 都道府県等の地方自治体による地域独自の林業関連認定制度の認定者」とは、静岡県の林業専門技術者認定制度や長野県の林業士制度など、地方自治体が認定している個人向けの林業関連の認定制度を指します。

## Q14B | 安全講習の内容

貴団体が活動対象地における安全講習を行うに当たり、具体的な講習の内容を教えてください。まだ安全講習を実施していない団体は、今年度実施予定の内容をご回答ください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 安全装備の着用および安全装備が必要な理由
- ② 動力付き機械(チェンソー、刈払機など)の使用法
- ③ 動力付き機械(チェンソー、刈払機など)の点検・メンテナンス方法
- ④ 手工具(ノコギリ、鉋、鎌など)の使用法
- ⑤ 手工具(ノコギリ、鉋、鎌など)の点検・メンテナンス方法
- ⑥ 樹木の伐倒時の安全対策
- ⑦ 樹木の運搬時の安全対策
- ⑧ 森林内の危険生物(クマ、イノシシ、ハチ、ヘビ、ツタウルシ等)対策
- ⑨ 急病や負傷時の応急措置
- ⑩ 熱中症対策
- ⑪ その他(自由記述欄にご回答をお願いします)
- ⑫ まだ、安全講習の内容は決まっていない

「⑪その他」にご回答の場合には、具体的な講習(予定)の内容を教えてください





**Q18B** | 地方自治体による上乗せ支援

平成 29 年度から、地方自治体が国の交付金に加えて上乗せする形での資金の支援（以下、上乗せ支援）を行う活動を優先的に交付金の採択の対象とするように改正が行われました。

平成 29 年度に貴団体が本交付金を取得するに際し、地方自治体から、上乗せ支援が得られたかどうか（予定含む）を教えてください。

**当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。**

- ① 都道府県と市町村の双方から上乗せ支援が得られた、あるいは得られる見込みである
- ② 都道府県からのみ上乗せ支援が得られた、あるいは得られる見込みである
- ③ 市町村からのみ上乗せ支援が得られた、あるいは得られる見込みである
- ④ 平成 29 年度内に上乗せ支援が得られるかどうかはまだわからない
- ⑤ 上乗せ支援は得られなかった

**Q19B** | 他団体からの協力

貴団体が本交付金の取り組みを行うに当たり、どのような団体や専門家から、どのような内容の支援を得て活動を行っているのかを教えてください。

**横 1 行ごとに当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。**

支援を受けた内容	A 書類作成	B 森林内での活動	C 安全講習	D 資機材の貸与	E 広報活動	F モニタリング調査	G 特に協力関係はない
協力団体							
① 都道府県	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 市町村	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地域の森林組合等の林業関係団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ NPO、森林ボランティア団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**Q20B** | モニタリングの目標

今年度より、交付金の効果を確認するためのモニタリング調査の実施が義務付けられるようになりました。

「交付金の効果の調査・確認方策について」（以下、モニタリングのガイドライン）に記載されている「目指す森づくり」のうち、貴団体はどのような森づくりを選んだのかを教えてください。

**当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。**

- ① 里山の高木林、大径木林を育成したい（地域環境保全全タイプ 里山林保全活動）
- ② 人工林をきれいにしたい（地域環境保全全タイプ 里山林保全活動）
- ③ 頻繁に更新を行う形の里山林（萌芽林）を再生・維持したい  
（地域環境保全全タイプ 里山林保全活動）
- ④ 希少種、あるいは里山の指標種を保護したい（地域環境保全全タイプ 里山林保全活動）
- ⑤ 侵入してきた竹を除去したい（地域環境保全全タイプ 侵入竹除去・竹林整備活動）
- ⑥ タケノコが利用できる竹林にしたい（地域環境保全全タイプ 侵入竹除去・竹林整備活動）
- ⑦ 竹林景観を守りたい（地域環境保全全タイプ 侵入竹除去・竹林整備活動）
- ⑧ 木質資源を持続的に生産し、利用していきたい（森林資源利用全タイプ）
- ⑨ 木材以外の資源を持続的に生産し、利用していきたい（森林資源利用全タイプ）
- ⑩ モニタリングのガイドラインで示されているのとは異なる目標を立てている  
（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑪ まだ「目指す森づくり」の目標を決めていない

「⑩モニタリングのガイドラインで示されているのとは異なる目標を立てている」にご回答の場合には、その具体的な森づくりの目標を教えてください

貴団体における初回調査の実施状況を教えてください。

横1行ごとに当てはまる選択肢にチェックの上で、調査ごとの質問にご回答ください

	A 実施済み	B 今後実施予定	C 実施しない
① 相対幹距比 (木の混み具合) 調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 萌芽再生率調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 植生調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 竹の本数調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 幹材積量調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 木材以外の資源の資源量調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ ①～⑥で示した以外の調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「A 実施済み」と回答した初回調査について、具体的な状況を教えてください

① 相対幹距比 (木の混み具合) 調査	22ページのQ21B-①-1～2にご回答ください
② 萌芽再生率調査	22ページのQ21B-②にご回答ください
③ 植生調査	23ページのQ21B-③-1～2にご回答ください
④ 竹の本数調査	24ページのQ21B-④-1～3にご回答ください
⑤ 幹材積量調査	25ページのQ21B-⑤にご回答ください
⑥ 木材以外の資源の資源量調査	25ページのQ21B-⑥にご回答ください
⑦ ①～⑥で示した以外の調査	26ページのQ22Bにご回答ください
初回調査をまだ実施していない (初回調査は今後実施する予定である)	27ページのQ23Bに移動してください

相対幹距比 (木の混み具合) 調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。調査結果を教えてください。(調査区が複数ある場合、主要な一か所の結果のみご回答ください)

当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。

- ① 20 未満       ② 20 以上 22 未満       ③ 22 以上 24 未満  
 ④ 24 以上 26 未満       ⑤ 26 以上 28 未満       ⑥ 28 以上 30 未満  
 ⑦ 30 以上       ⑧ わからない

相対幹距比 (木の混み具合) 調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。Q21B-①-1 でご回答いただいた調査区について、初回調査時点の状態を教えてください。

当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。

- ① 針葉樹林 (スギ、ヒノキなど)       ② 落葉広葉樹林 (クヌギ、コナラなど)  
 ③ 常緑広葉樹林 (シイ、カシなど)       ④ 針広混交林  
 ⑤ わからない

萌芽再生率調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。萌芽再生の対象とする樹種 (予定含む) を教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① クヌギ       ② コナラ       ③ ミズナラ  
 ④ その他 (自由記述欄にご回答をお願いします)

「④その他」にご回答の場合には、その具体的な樹種の標準和名を教えてください



Q21B-③-1 植生調査

**植生調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。**  
本交付金の活動で保護の対象とする目標種について教えてください

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 希少種（レッドデータブック、レッドリストに記載されている種）  
（具体的な種名を自由記述欄の「①希少種」の欄にて教えてください）
- ② 里山の指標種（里山環境に生育し、地域にとって重要な種）  
（具体的な種名を自由記述欄の「②里山の指標種」の欄にて教えてください）

本交付金で保護対象とする目標種の種名をすべて、以下の自由記述欄に標準和名で教えてください

① 希少種	
② 里山の指標種	

Q21B-③-2 植生調査

**植生調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。**  
目標対象種の、調査区内における生育状況を教えてください

当てはまる選択肢一つだけチェックを入れてください。

- ① 対象とする種はすべて確認できた
- ② 対象とする種で確認できたものと確認できなかったものがある
- ③ 対象とする種は確認できなかった

Q21B-④-1 竹の本数調査

**竹の本数調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。**  
調査区をどのように設定したのかを教えてください

当てはまる選択肢一つだけチェックを入れてください。

- ① 25 m<sup>2</sup>の方形調査区
- ② 100 m<sup>2</sup>の円形調査区
- ③ ①および②以外の調査区（例：100 m<sup>2</sup>の方形調査区など）

Q21B-④-2 竹の本数調査

**竹の本数調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。**  
本交付金の活動の対象としている竹の種類を教えてください

当てはまる選択肢にすべてにチェックを入れてください。

- ① モウソウチク  ② マダケ  ③ ハチク
- ④ “①～③以外”の竹類  ⑤ わからない

Q21B-④-3 竹の本数調査

**竹の本数調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。**  
初回調査で確認された1ヘクタール当たりの竹の本数を教えてください

当てはまる選択肢一つだけチェックを入れてください。

- ① 2,000 本未満  ② 2,000～3,999 本  ③ 4,000～5,999 本
- ④ 6,000～7,999 本  ⑤ 8,000～1 万本未満  ⑥ 1 万以上 2 万本未満
- ⑦ 2 万本以上  ⑧ わからない（本数単位で数えることができない）

Q21B-⑤ 幹材積量調査 (木質資源の資源量調査)

幹材積量調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。

初回調査で確認された、1ヘクタール当たりのおおよその幹材積量と、初回調査時点で確認できた木質資源をおおよそ何年間かけて伐採をして、利用をしていく予定であるかを教えてください。

おおよその数字を記入してください。

確認された幹材積量 (1ヘクタール当たり)	おおよそ ( ) m <sup>3</sup> (立方メートル)
初回調査時に活動対象地で確認された 木質資源を利用する予定期間	おおよそ ( ) 年間

Q21B-⑥ 木材以外の資源の資源量調査

木材以外の資源の資源量調査の初回調査を実施した団体にお伺いいたします。  
どのような資源を利用することを考えているのかを教えてください。

当てはまる選択肢にすべてにチェックを入れてください。

- ① キノコ     ② タケノコ     ③ 野草  
 ④ 樹実 (木の実)     ⑤ 葉 (落葉含む)     ⑥ 樹液・樹脂  
 ⑦ その他 (自由記述欄にご回答をお願いします)  
 ⑧ どのような資源を利用するかはまだ決めていない

「⑦その他」にご回答の場合には、その具体的な利用する資源を教えてください

Q22B | モニタリングの調査方法

Q21Bにおいて、「⑦ ①~⑥で示した以外の調査」と回答した団体にお伺いします。  
具体的に、どの活動タイプにおいて、どのような調査方法を選択したのかを、自由記述にて教えてください。

活動タイプごとに、具体的な独自調査の方法を自由記述にてご回答してください。

(独自の調査方法1) 調査対象の活動タイプ (当てはまる活動タイプに チェックをお願いします)	<input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ 里山林保全活動 <input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ 侵入竹除去、竹林整備 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ
具体的な調査方法 (自由記述にてご回答くだ さい)	

(独自の調査方法2)

調査対象の活動タイプ (当てはまる活動タイプに チェックをお願いします)	<input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ 里山林保全活動 <input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ 侵入竹除去、竹林整備 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ
具体的な調査方法 (自由記述にてご回答くだ さい)	

Q23B | モニタリングの数値目標の目安の難易度

モニタリングのガイドラインでは、それぞれの調査方法ごとに、数値目標の目安が設定されています。貴団体が実際に実施した、あるいは実施予定のモニタリング調査における目安の難易度について、貴団体の印象を教えてください。

※目安とは異なる数値目標を決めた団体も、目安に対する印象をご回答いただきますようお願いいたします。

実施する調査のみ、横1行ごとに当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。

印象 調査（目標の目安）	印象					
	A 達成は非常に容易である	B 達成は容易である	C 容易でも困難でもない	D 達成は困難である	E 達成は非常に困難である	F よくわからない
① 相対幹距比調査 (1~2ポイント以上改善)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 萌芽再生率調査 (20%以上が若返った状態にする)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 植生調査 (希少種等の個体数を増やす)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 竹の本数調査 (侵入竹除去) (竹の本数をゼロにする)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 竹の本数調査 (竹の本数管理) (1haあたり2,500本~4,000本程度)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 幹材積量調査 (確認資源量の50%程度を利用)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 木材以外の資源の資源量調査 (利用可能な資源を維持あるいは増やす)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q24B | モニタリングのガイドラインへの意見

貴団体がモニタリングのガイドラインを利用して初回調査や目標設定を行うに当たり、利用しにくいと感じたことがございましたら、教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 専門用語が多くて読みにくい
- ② 文字が小さいので読みにくい
- ③ 図や写真が少なく、具体的な調査のイメージがわかりにくい
- ④ 自団体が目指す森林の姿を評価する手法がガイドラインに掲載されていない
- ⑤ 調査区（円形調査区、方形調査区）をどのように設定すればよいかわかりにくい
- ⑥ どこに調査区を設定すればよいかわかりにくい
- ⑦ 数値目標をどのように決めればよいかわかりにくい
- ⑧ 何を対象として調査や目標の設定を行えばよいかわかりにくい
- ⑨ モニタリング調査の目的や必要性がわかりにくい
- ⑩ 相対幹距比調査の説明がわかりにくい
- ⑪ 萌芽再生率調査の説明がわかりにくい
- ⑫ 植生調査の説明がわかりにくい
- ⑬ 竹の本数調査の説明がわかりにくい
- ⑭ 幹材積量調査の説明がわかりにくい
- ⑮ 木材以外の資源の資源量調査の説明がわかりにくい
- ⑯ 独自提案調査に関する説明がわかりにくい
- ⑰ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑱ 特にわかりにくいと感じたことはない

「⑰その他」にご回答の場合には、具体的に利用しづらいと感じたことを教えてください



貴団体がモニタリング調査を行うために実際に調査区を設置し、初回調査を実施するに当たり、苦勞したことを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① モニタリング調査を行うのに必要な資機材がない、不足していた
- ② モニタリング調査を行うのに必要な人手が不足していた
- ③ 他のメンバーがモニタリング調査の目的や必要性を理解できず、協力を得にくい
- ④ モニタリング調査を行うのに必要な技術がなかった
- ⑤ モニタリング調査を行うのに必要な専門知識がなかった（種名がわからないなど）
- ⑥ 何を対象として調査を行えばよいかわからなかった
- ⑦ 調査対象地がモニタリング調査を行うことができるとなるような状態になかった
- ⑧ 調査区（円形調査区、方形調査区）の面積が広すぎて負担が大きかった
- ⑨ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑩ 特に初回調査で苦勞したことはない  
（⇒ 31ページのQ27Bに移動してください）
- ⑪ まだモニタリングの初回調査を実施していない  
（⇒ 32ページのQ28Bに移動してください）

「⑨その他」にご回答の場合には、具体的に苦勞したことを教えてください

Q25Bにおいて、モニタリング調査を行うために、苦勞したことがあると回答した団体にお伺いします。「⑩ 特に初回調査で苦勞したことはない」または「⑪ まだモニタリングの初回調査を実施していない」と回答した団体はこの質問への回答の必要はありません。」

貴団体がモニタリングの初回調査を行う上で苦勞したと感じたことについて、どのように対応したのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 地域協議会の助言・支援を受けた
- ② 地域協議会より調査について詳しい方の斡旋・紹介を受けた
- ③ 調査について経験や知見を持つ別の団体の助言・支援を受けた
- ④ 調査について経験や知見を持つ個人の助言・支援を受けた
- ⑤ 外部の講習会等を通じて、活動組織の参加者の能力や知識を高めることで対応した
- ⑥ 他の助言・支援を受けずに、活動組織内での努力で対応した
- ⑦ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑧ まだ、モニタリング調査で森林・竹林の状態を把握することができていない

「⑦その他」にご回答の場合には、具体的な対応を教えてください

**Q27B** | モニタリングでの工夫

貴団体が交付金の効果を確認するためのモニタリング調査を行う上で、調査を行いやすくしたり、調査結果の精度を上げることを目的として、工夫していることがございましたら教えてください。

対象となる調査にチェックの上で、工夫の内容を自由記述にてご回答ください。

<p>工夫の対象となる調査を教えてください (該当する選択肢にチェックをしてください)</p>	<p><input type="checkbox"/> ① 相対幹距比(木の混み具合)調査  <input type="checkbox"/> ② 萌芽再生率調査  <input type="checkbox"/> ③ 植生調査  <input type="checkbox"/> ④ 竹の本数調査  <input type="checkbox"/> ⑤ 幹材積量調査  <input type="checkbox"/> ⑥ 木材以外の資源の資源量調査  <input type="checkbox"/> ⑦ ①～⑥で示した以外の調査  <input type="checkbox"/> ⑧ 調査で工夫していることはない/調査を実施していない</p>
<p>具体的にを行っている工夫を教えてください (自由記述にてご回答ください)</p>	

**Q28B** | ご意見・ご要望

本交付金事業全般、あるいは地域協議会に対する意見や要望がございましたら教えてください。

自由記述にてご回答ください。回答は任意です。

**Q29B** | モニタリングについての調査への協力の可能性

今年度、モニタリング調査に関する実態把握とガイドラインの改訂に向けた情報収集の一環として、活動組織の皆様を対象として、モニタリング調査に関する現地での聞き取り調査を行う予定です。(実施時期は10月～1月ごろを予定しています)  
 貴団体が、聞き取り調査にご協力いただくことが可能であるかどうかを教えてください。

当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。

- ① 協力可能である
- ② 協力することは難しい

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございます

## 森林・山村多面的機能発揮対策に関する市町村アンケート調査

市町村名、担当部署、アンケート記入者名、連絡先をご記入ください。

市町村名	
担当部署	
アンケート記入者名	
連絡先	(電話番号)： (Eメールアドレス)：

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業に関連する市町村の皆様を対象として、各種の支援活動等の状況や活動組織の有効性・妥当性の承認にあたっての課題等をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策の検討等に利用することを目的としています。
- ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。
- 本アンケートは、森林・山村多面的機能発揮対策事業に関連して、交付金申請団体の有効性・妥当性の確認を行ったご担当者様などにご記入をお願いいたします。
- 選択式の質問では、あてはまる選択肢のチェック欄 (□) にチェック (☑) をお願いいたします。
- お忙しいところ恐縮ですが、ご記入後、**平成29年12月26日(火)**までに同封の返信用封筒又はEメールにて、本アンケート用紙をご返送いただくようお願いいたします。
- Eメールでのご回答を希望される場合は、下記調査票ダウンロードサイトにて調査票をダウンロードしていただくか、下記の(公財)日本生態系協会へご連絡をお願いいたします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会 (担当：野口、平林、小川)  
住 所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル  
電 話：03-5951-0244  
Eメール：shinrin2017@ecosys.or.jp  
調査票ダウンロードサイト：http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin2017.html

Q1 | 対象市町村で直面している森林に関する課題

貴自治体内の森林・竹林において、貴自治体が把握している範囲で、どのような問題が生じているかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 景観の悪化
- ② 森林・竹林周辺の家屋や道路、農地等への樹木・竹の倒伏被害
- ③ 森林・竹林内部での鳥獣被害
- ④ 森林・竹林周辺の農地等での鳥獣被害
- ⑤ 整備のされない放置林・放置竹林の発生
- ⑥ 伐採後、植林が行われない造林放棄地の発生
- ⑦ 土砂流出の発生
- ⑧ ゴミの不法投棄の発生
- ⑨ 希少植物の盗掘被害の発生
- ⑩ 所有者がわからない森林・竹林の発生
- ⑪ 集落住民の高齢化による作業者(後継者)の不足
- ⑫ その他(自由記述欄にご回答ください)
- ⑬ 特に問題は発生していない
- ⑭ どのような問題が生じているのかを把握していない

「⑫その他」にご回答の市町村は、具体的に直面している問題を教えてください



森林や竹林で活動を行う団体を支援するための交付金である「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」(林野庁事業。以下「本交付金」という。)では、平成 29 年度より、活動対象地の地元市町村により、その活動の有効性・妥当性が認められた団体を対象に交付を行うようによりに制度が改正されました。

平成 29 年度に貴自治体内での本交付金申請団体数、承認した申請団体の数、現地確認を行った申請団体の数について教えてください。

**それぞれの項目別に、具体的な数字を記入してください**

質問内容	団体数
① 平成 29 年度の申請団体数 <sup>※1</sup>	団体
② ①の団体の中で有効性・妥当性があると承認した申請団体の数 <sup>※2</sup> (本交付金を取得するのにふさわしいと認めた団体の数)	団体
③ 有効性・妥当性を判断するために現地確認を行った申請団体の数	団体

※1 ①の申請団体数が 0 (ゼロ) 団体の場合は、アンケートは以上となります。  
ご協力いただきありがとうございます。

申請団体が 1 団体以上ある場合は、その承認の有無にかかわらず、Q3 以降にもご回答ください

※2 ①の申請団体が 1 団体以上あり、②の承認した団体の数が 0 (ゼロ) 団体の場合は、8 ページの Q8 までご回答ください。

承認した申請団体の数が 1 団体以上ある場合は、最終ページ (18 ページ) の Q19 までご回答ください。

貴自治体が、本交付金の申請団体について、どのような方法で、その活動の有効性・妥当性を判断したのかを教えてください。(どのような方法で、本交付金を取得するのにふさわしいことを確認したのかを教えてください。)

**当てはまる選択肢すべてにご回答ください**

- ① 地域協議会 (各都道府県にある本交付金の交付についての事務を行う団体) から提供された資料をもとに判断した
- ② 対象となった団体に、活動に関連した書類提供を追加依頼した
- ③ 対象となった団体に電話でヒアリングを行った
- ④ 対象となった団体に対面でヒアリングを行った
- ⑤ 対象となった団体の活動場所の現地確認を実施した
- ⑥ 対象となった団体と市町村が、申請段階で既に協力や交流をする関係にあり、それらの既存情報により判断できた (書類作成支援や活動場所の提供など)
- ⑦ その他 (自由記述欄にご回答ください)
- ⑧ 特に申請団体の有効性・妥当性判断のための確認作業を行わなかった

「⑦その他」にご回答の市町村は、具体的にとどのよう判断したのかを教えてください

Q4 | 有効性・妥当性を認めるための条件

貴自治体が、申請団体について、本交付金の交付対象としてふさわしいと承認する上で何らかの条件がありましたら、①～⑧すべてについて横一行ごとに当てはまるチェック欄にチェックしてください。もし、①～⑧以外の条件がございましたら、⑨にもご回答ください。

横一行ごとに当てはまる選択肢にご回答ください

条件の内容	条件を重視する度合い			C 特に考慮の対象となる 条件とは考えていない
	A 必須条件と考えている	B 必須ではないが、考慮 の対象と考えている	C 特に考慮の対象となる 条件とは考えていない	
① 地域の景観改善に寄与すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 地域の活性化や地域の問題解決に貢献すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 森林環境教育等の教育活動に貢献していること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 対象地の市町村の住民が参加していること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 十分な参加者数が確保されていること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 過去に十分な作業実績を有していること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 作業従事者向けの安全対策が適切に行われていること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 物損事故の防止など、活動対象地周辺に対する安全対策が適切に行われていること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ その他 (自由記述欄にご回答ください)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「⑨その他」にご回答の市町村は、具体的に重視する条件について教えてください

Q5 | 申請団体への指導内容

貴自治体が、本交付金の申請団体に対して、有効性・妥当性の承認の際や、申請団体の実際の活動について、具体的に指示や要望を行っているようでしたら、その内容について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 森林資源を活用した地域経済の活性化に関することについて
- ② 具体的な森林整備の作業内容に関することについて
- ③ 景観改善に関することについて
- ④ 地域住民の参加を広げることについて
- ⑤ 森林・環境教育や自然体験活動の実施に関することについて
- ⑥ 伐採など、作業を行う上で必要な手続きに関することについて
- ⑦ 地域の希少生物の保護や自然保護上の対応に関することについて
- ⑧ 伐採した樹木等の処理に関することについて
- ⑨ 負傷事故の防止など、作業従事者向けの安全対策に関することについて
- ⑩ 物損事故の防止など、活動対象地周辺に対する安全対策に関することについて
- ⑪ 活動対象地周辺の近隣住民とのトラブル防止に関することについて
- ⑫ その他 (自由記述欄にご回答ください)
- ⑬ 特に指示や要望等を行っていない

「⑫その他」にご回答の市町村は、具体的な内容について教えてください

Q6 | 市町村が有効性・妥当性を判断する上での課題

貴自治体が、本交付金の申請団体における活動の有効性・妥当性を判断するに当たり、課題と感ずることを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 申請団体の活動の有効性・妥当性をどのように判断すればよいのかわからない
- ② 申請団体について、十分な情報を入手することができない
- ③ 申請団体のことを把握するためには、時間が不足している
- ④ 有効性・妥当性を確認にあたっての事務作業の負担が大さい
- ⑤ 有効性・妥当性の承認に当たって生じるトラブルに懸念がある
- ⑥ 本交付金のことがよくわからない
- ⑦ 不明な点をどこに問い合わせればよいのかわからない
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 特に課題と感ずることはない

「⑧その他」にご回答の市町村は、具体的な課題について教えてください

Q7 | 本交付金の申請団体について有効性・妥当性を承認しなかつた理由

貴自治体が、本交付金の申請団体で、有効性・妥当性を承認しなかつた団体がある場合は、その理由を教えてください。

すべての申請団体を承認した場合は、チェック欄（□）にチェックをお願いします。

自由記述にてご回答ください

--

申請団体すべてについて有効性・妥当性を承認した

Q8 | 本交付金に関連して苦勞していること

貴自治体が、本交付金に関連して、苦勞していることがございましたら、その具体的な内容を教えてください。

自由記述にてご回答ください

--

本交付金の申請団体があったものの、有効性・妥当性を承認した団体がない自治体への質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございます。



Q9 | 活動組織に対する支援

貴自治体が、本交付金の取得団体（以下、「活動組織」という。）あるいは申請団体に対して、金銭面以外でどのような支援を行っているのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 交付金に関する書類作成等事務作業
- ② 活動対象地における森林作業（作業の補助や作業内容への助言等）
- ③ 安全対策（安全講習の実施など）
- ④ 資機材の貸与
- ⑤ 広報活動（活動紹介など）
- ⑥ モニタリング調査に対する支援（補助・現地指導など）
- ⑦ 活動場所の提供あるいは斡旋
- ⑧ 所有者のわからない活動対象候補地についての所有者探索協力
- ⑨ 活動対象地が本交付金の対象となりうるかどうかについての情報提供
- ⑩ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑪ 特に支援は行っていません

「⑩その他」にご回答の市町村は、具体的な支援について教えてください

Q10 | 上乗せ支援の有無

本交付金では、平成 29 年度から、地方自治体が国の交付金に加えて上乗せする形での資金の支援（以下、「上乗せ支援」という。）を行う活動を優先的に交付金の採択の対象とするよう  
に交付金についての制度改正が行われました。

貴自治体では、活動組織（予定含む）に対して、平成 29 年度に上乗せ支援を行うかどうかを教えてください。

当てはまる選択肢に一つだけご回答ください

- ① すべての活動組織に対して上乗せ支援を行う（予定含む）
- ② 上乗せ支援を行う（予定含む）活動組織と、そうでない活動組織がある
- ③ 上乗せ支援を行うかどうかは現在検討中である
- ④ 上乗せ支援を行う予定はない

Q10 への回答により、この後にご回答いただく質問が変わります。

「①すべての活動組織に上乗せ支援」 にご回答の場合	11 ページの Q11 12 ページの Q12 13 ページの Q13 16 ページの Q16 以降	にご回答ください
「②行う団体とそうでない団体がある」 にご回答の場合	11 ページの Q11 12 ページの Q12 13 ページの Q13 14 ページの Q14 16 ページの Q16 以降	にご回答ください
「③検討中」にご回答の場合	16 ページの Q16 以降	にご回答ください
「④上乗せ支援を行う予定はない」 にご回答の場合	15 ページの Q15 16 ページの Q16 以降	にご回答ください

平成29年度に上乗せ支援を行う（予定含む）自治体にお伺いします。

（10ページQ10において、①又は②と回答した自治体にお伺いします。）

貴自治体が活動組織に対して交付する（予定含む）上乗せ支援の上限金額について、国の交付単価と比較した場合の1ha当たりの交付金額が、以下に示す金額の中で最も近い金額を教えてください（厳密に同じ数字でなくとも構いません）。

当てはまる選択肢に一つだけご回答ください

- ① 国の交付単価の1/6未満（国の交付単価の17%未満）
- ② 国の交付単価の1/6程度（国の17%程度。里山林保全で2万円程度）
- ③ 国の交付単価の1/4程度（国の25%程度。里山林保全で3万円程度）
- ④ 国の交付単価の1/3程度（国の33%程度。里山林保全で4万円程度）
- ⑤ 国の交付単価の1/3より高い金額を交付する。
- ⑥ 国の交付単価との比率ではなく、一定額を支給している

（⑥にご回答の場合は具体的金額も教えてください）

- ⑦ まだ交付金額は決まっていない

※もし、活動タイプごとに交付率が異なる場合は、最も申請数が多い活動タイプでの交付額を回答ください。

※「活動推進費」「教育・研修活動タイプ」「森林機能強化タイプ」への交付額は除外してご回答ください。

【参考】平成29年度における国の交付単価は以下の金額となっています。

活動タイプ	1haあたりの交付金額
地域環境保全タイプ 里山林保全	120,000円
地域環境保全タイプ 侵入竹除去・竹林整備	285,000円
森林資源利用タイプ	120,000円

平成29年度に上乗せ支援を行う（予定含む）自治体にお伺いします。

（10ページQ10において、①又は②と回答した自治体にお伺いします。）

貴自治体による上乗せ支援について、具体的な支給方法（支給ルート）を教えてください。

当てはまる選択肢の一つだけご回答ください

- ① 地域協議会を経由して支給している（予定含む）
- ② 活動組織に直接支給している（予定含む）
- ③ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ④ 支給方法はまだ決まっていない

「③その他」にご回答の市町村は、具体的に、どのような方法で活動組織に上乗せ支援を支給しているのか（支給ルート）を教えてください

Q13 | 上乗せ支援支給の条件

平成 29 年度に上乗せ支援を行う（予定含む）自治体にお伺いします。  
（10 ページ Q10 において、①又は②と回答した自治体にお伺いします。）  
活動組織に対して上乗せ支援を行うための条件等がありましたら、その具体的な条件等を教えてください。

当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 都道府県から上乗せ支援を受けていること（あるいは受ける予定である）
- ② 過去に十分な活動実績があること
- ③ 市町村で指示や要望等をした活動内容に合致していること
- ④ 参加者の中に地元市町村の在住者がいること
- ⑤ 予算の範囲内での先着順
- ⑥ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑦ 特に条件はない

「⑥その他」にご回答の市町村は、具体的な条件について教えてください

Q14 | 上乗せ支援を行わない団体が生じた理由

平成 29 年度に上乗せ支援を行う（予定含む）活動組織とそうでない活動組織の双方がある自治体にお伺いいたします。  
（10 ページ Q10 において、②と回答した自治体にお伺いします。）  
平成 29 年度に上乗せ支援の「対象ではない」活動組織が生じたことになった理由を教えてください。

当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 上乗せ支援の対象団体は、任意の募集によって決められていた
- ② 上乗せ支援の対象団体は、過年度の活動実績により決められていた
- ③ 上乗せ支援の対象団体は、都道府県も支援する団体に限定されていた
- ④ 決められた予算では対象候補団体すべてをカバーできなかった
- ⑤ 対象候補団体が多く、追加の予算措置を行うための時間がなかった
- ⑥ 市町村で上乗せ支援を実施するに当たり、森林作業についての条件を提示したが、その条件を満たすことのできない対象候補団体があった
- ⑦ 対象候補団体の中に、具体的にどのような活動を行っているのかわからない団体があつた
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 理由はよくわからない

「⑧その他」にご回答の市町村は、具体的な理由について教えてください



## Q15 | 上乗せ支援を行わない理由

平成 29 年度に上乗せ支援を行わない（予定含む）自治体にお伺いいたします。  
（10 ページ Q10 において、④と回答した自治体にお伺いします。）  
平成 29 年度に上乗せ支援を実施しないことになった理由について教えてください。

### 当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 上乗せ支援について、議会の承認が得られない（遅れている）
- ② 予算化を行うための時間がなかった
- ③ 上乗せ支援について、担当部署内で検討中である
- ④ 本交付金のことがよくわからない
- ⑤ 本交付金と別の森林ボランティア支援制度があり、上乗せ支援の必要を感じない
- ⑥ 国からの支援だけで十分な支援であると考えている
- ⑦ 都道府県が上乗せ支援を行うので、市町村で行う必要はないと考えている
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 申請団体すべてについて、有効性・妥当性を承認しなかった

「⑧その他」にご回答の市町村は、具体的な理由について教えてください

## Q16 | 平成 30 年度の上乗せ支援の予定

貴自治体では、活動組織（予定含む）に対して、平成 30 年度に上乗せ支援を行う予定があるかどうかを教えてください。

### 当てはまる選択肢の一つだけにご回答ください

- ① すべての活動組織に対して上乗せ支援を行う予定である
- ② 上乗せ支援を行う予定の活動組織と、そうでない活動組織がある
- ③ 上乗せ支援を行うかどうかは現在検討中である
- ④ 上乗せ支援は実施しない予定である（次ページの Q17 にもご回答ください）
- ⑤ まだ上乗せ支援についてどうなるかはよくわからない

※「④ 上乗せ支援は実施しない予定である」以外にご回答の自治体は 18 ページの Q18 に移動してください

Q17 | 上乗せ支援を行わない理由

Q16において、「④ 上乗せ支援は実施しない予定である」と回答した自治体にお伺いいたします。

貴自治体が、上乗せ支援を実施しない理由について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにご回答ください

- ① 上乗せ支援について、議会の承認が得られる可能性が少ない
- ② 予算化を行うための準備が間に合わない
- ③ 市町村の財政事情が厳しい
- ④ 本交付金のことがよくわからない
- ⑤ 本交付金と別の森林ボランティア支援制度があり、上乗せ支援の必要を感じない
- ⑥ 国からの支援だけで十分な支援であると考えている
- ⑦ 都道府県が上乗せ支援を行うので、市町村で行う必要はないと考えている
- ⑧ 平成30年度に本交付金を申請する団体が存在しない見込みである
- ⑨ 本交付金を取得した活動組織の活動が期待した内容ではなかった
- ⑩ その他（自由記述欄にご回答ください）

「⑩その他」にご回答の市町村は、具体的な理由について教えてください

Q18 | 本交付金全般への意見

本交付金事業全般に対する意見や要望がございましたら教えてください。  
特に意見や要望がない場合は、「意見や要望はない」のチェック欄（□）にチェックをお願いいたします。

自由記述にてご回答ください

特に本交付金についての意見や要望はない

Q19 | ヒアリング調査への協力について

本年度、市町村の皆様を対象として、本交付金に関する聞き取り調査を実施する予定です。（実施時期は2018年1月～2月ごろを予定しています）  
貴自治体が、聞き取り調査にご協力いただくことが可能であるかどうかを教えてください。

当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。

- ① 協力可能である
- ② 協力することは難しい

アンケートは以上となります。ご協力いただきありがとうございます。

平成 29 年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 報告書

平成 30 年 3 月

(発行) 林野庁

(作成) 公益財団法人日本生態系協会 グランドデザイン総合研究所  
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル  
TEL : 03-5951-0244 / FAX : 03-5951-2974

---

平成 29 年度  
森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業  
報告書

平成 30 年 3 月  
林 野 庁

---